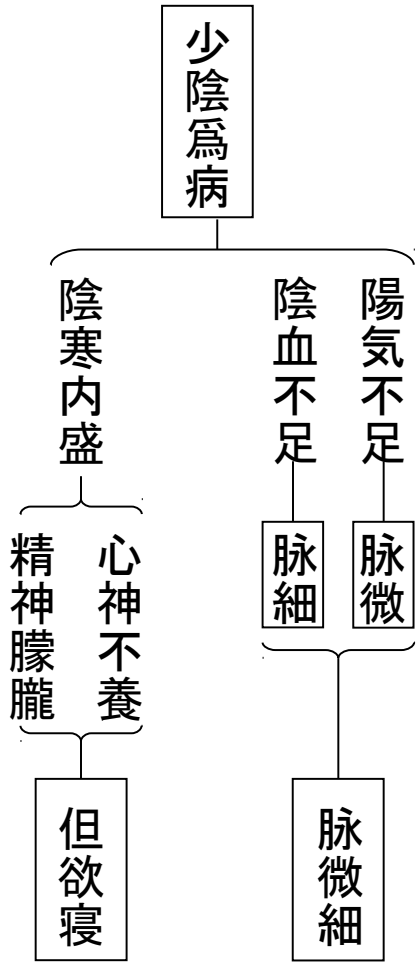


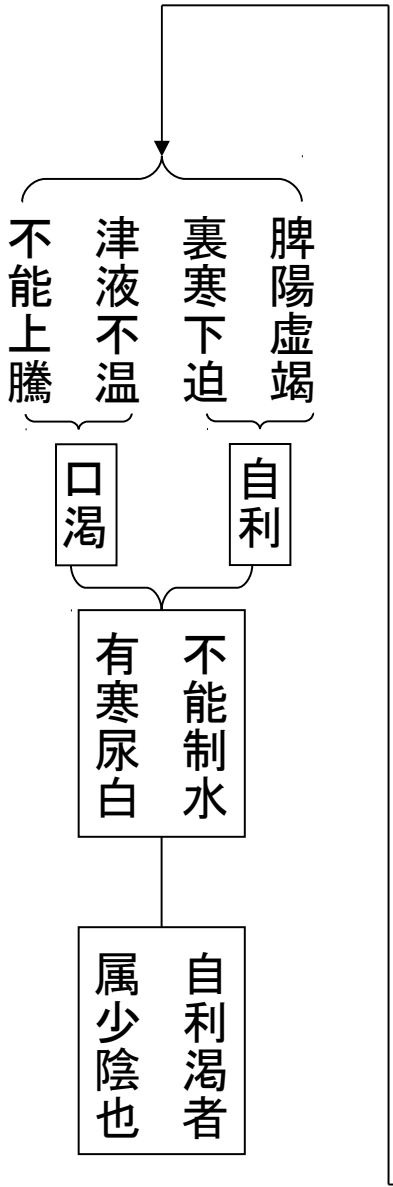
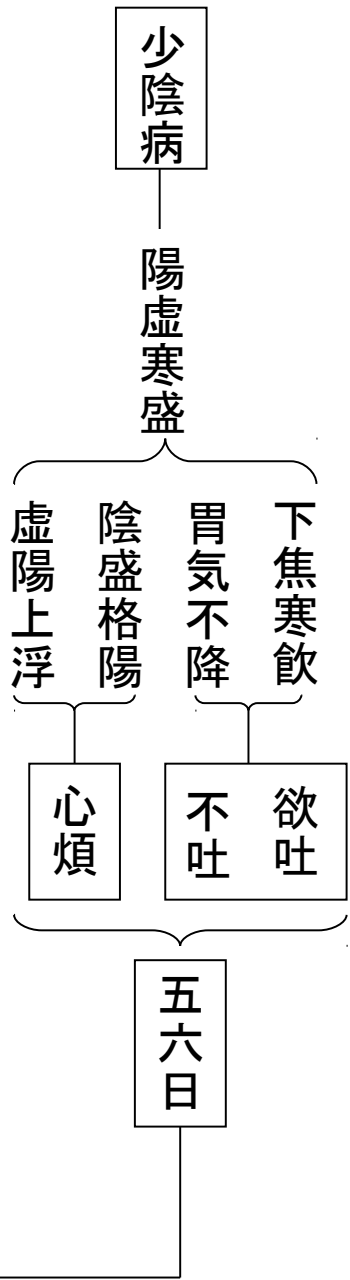
并少陰病脈証并治

第二八一条 少陰之病爲、脉微細、但欲寢也。



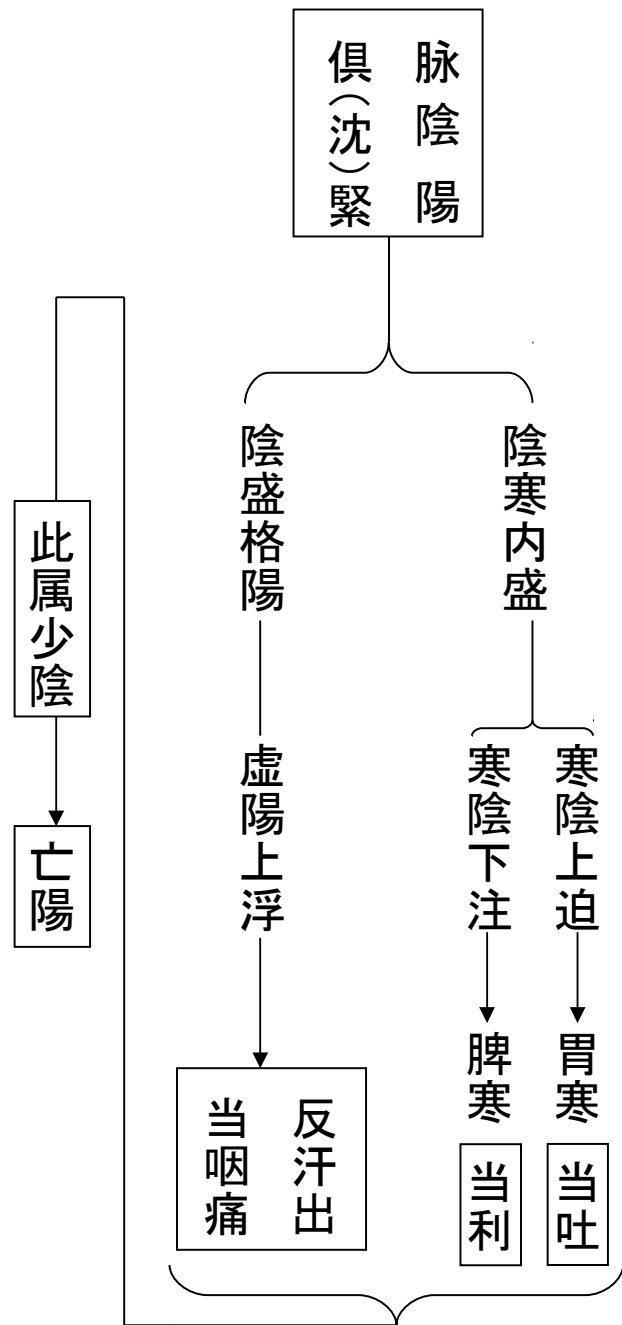
第二八二条 少陰病、欲吐不吐、心煩但欲寢、五六日自利而渴

者、属少陰也。虚故引水自救。若小便色白者、少陰形悉具。小便白者、以下焦虚有寒、不能制水、故令色白也。

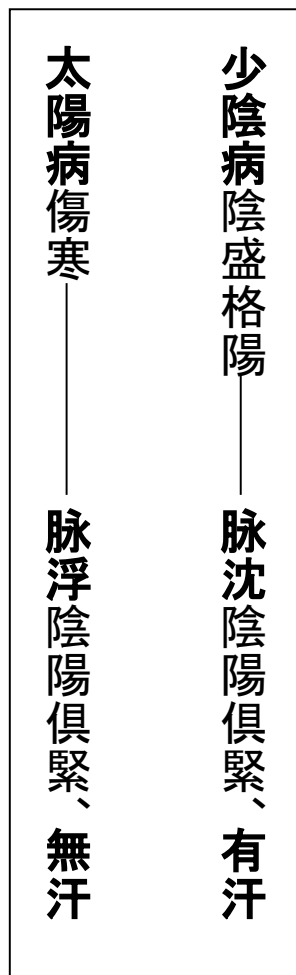


第二八三条 病人脉陰陽俱緊、反汗出者、亡陽也。此属少陰、

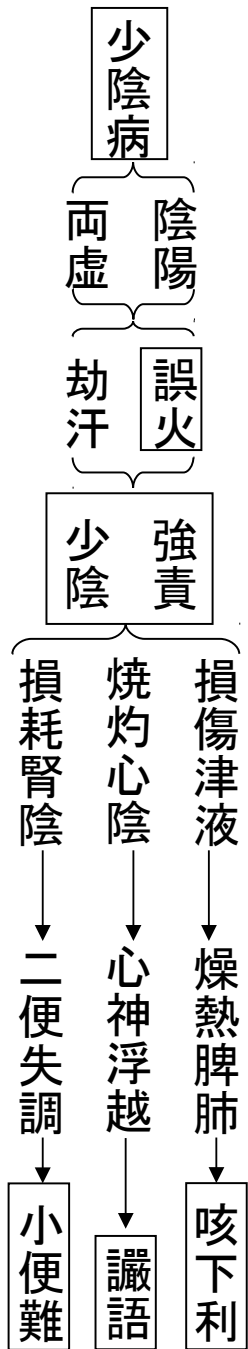
法当咽痛而復吐利。



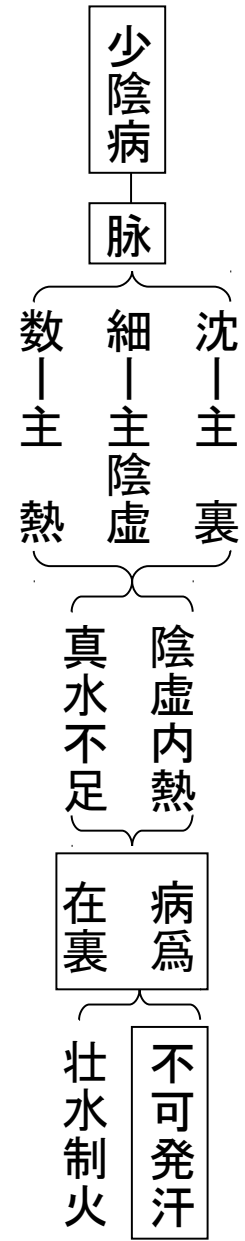
注



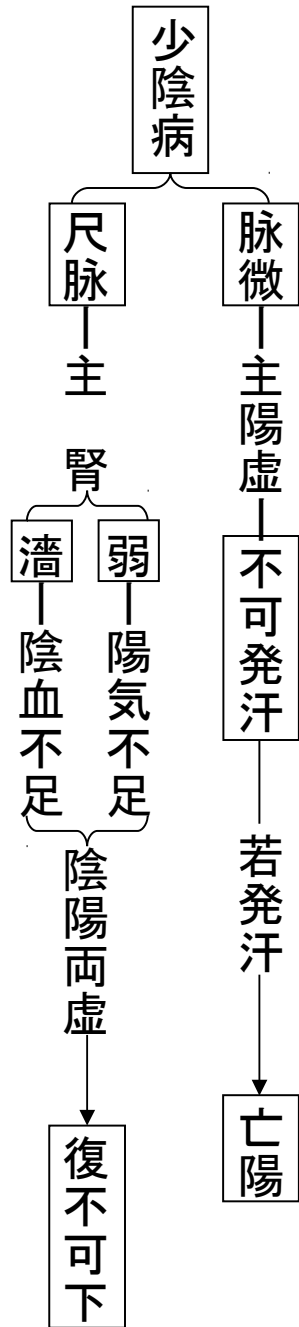
第二八四条 少陰病、咳而下利、譫語者、被火氣劫故也。小便必難、以強責少陰汗也。



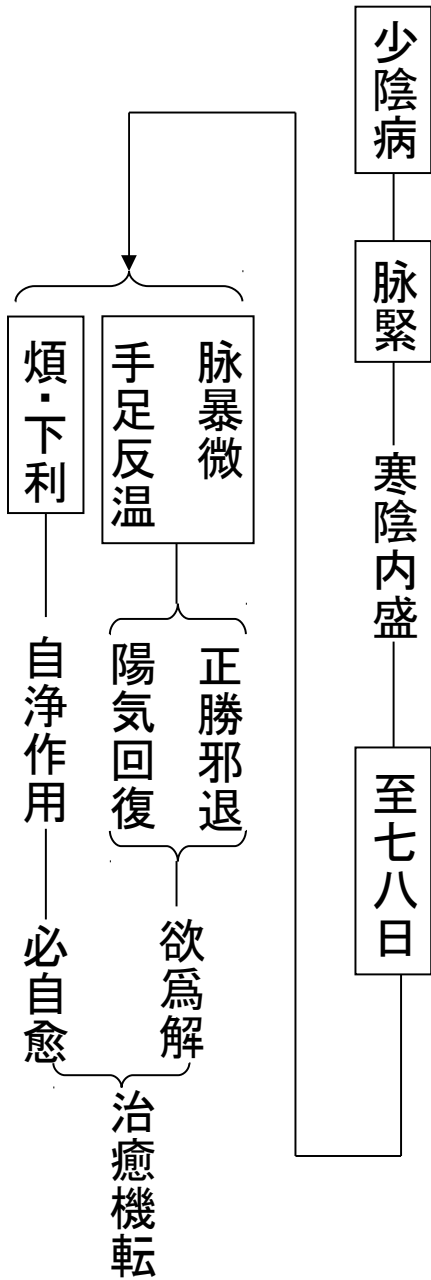
第二八五条 少陰病、脉細沈数、病爲在裏、不可發汗。



第二八六条 少陰病、脉微、不可發汗、亡陽故也。陽已虛、尺脉弱瀼者、復不可下之。

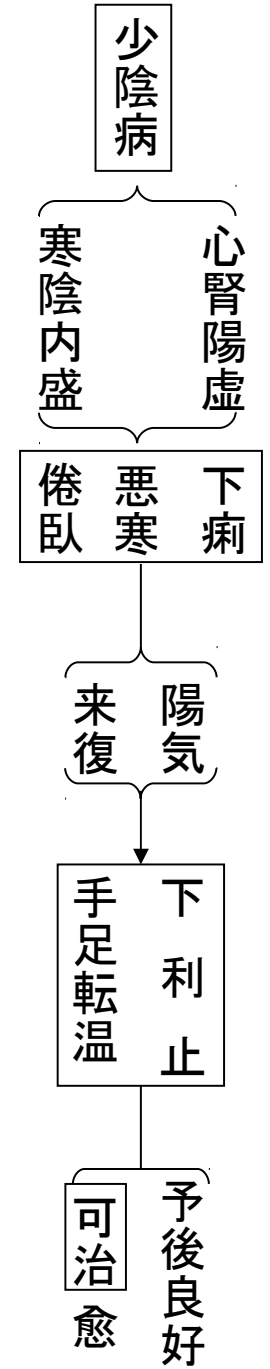


第二八七条 少陰病、脉緊、至七八日自下利、脉暴微、手足反温、脉緊反去者、爲欲解也、雖煩、下利、必自愈。

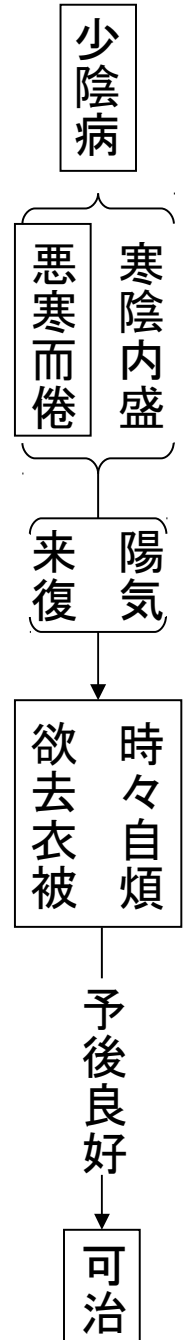


第二八八条 少陰病、下利、若利自止、惡寒而倦臥、手足温者、

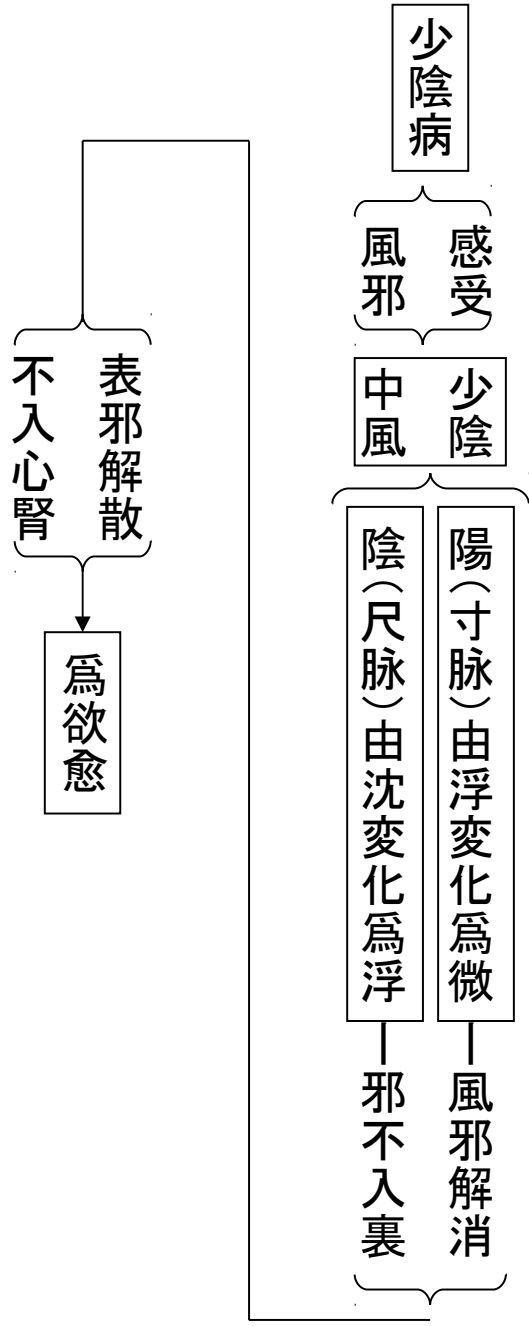
可治。



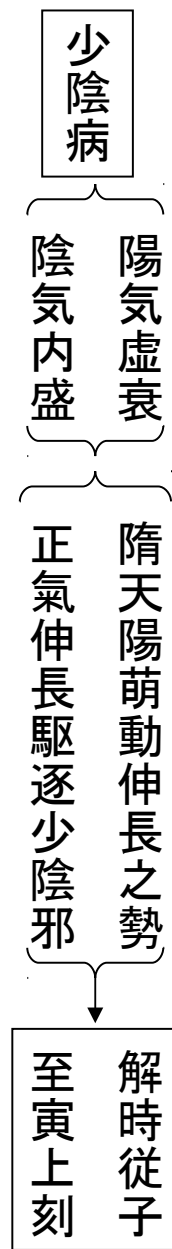
第二八九条 少陰病、惡寒而倦、時自煩、欲去衣被者、可治。



第二九〇条 少陰中風、脉陽微陰浮者、爲欲愈。



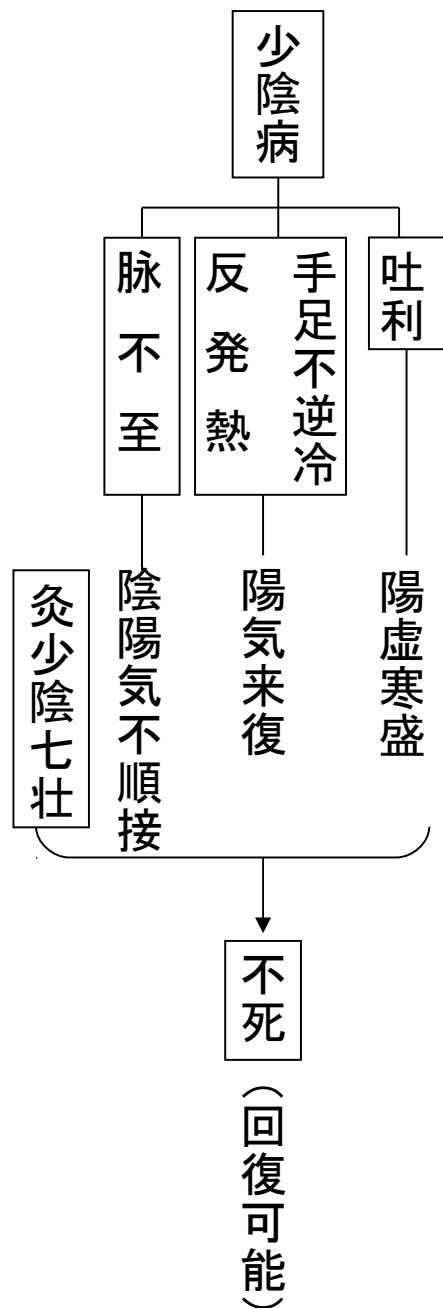
第二九一条 少陰病欲解時、從子至寅上。



昼夜氣機昇降浮沈の法則に従う。少陰病は陰寒の程度が太陰病より強いので、解すには天の陽氣が生じ始める子の刻では未だ不十分で、天陽が徐々に伸長する丑の刻から寅の上刻迄待たねばならない。
(原田康治先生『時間医学初探』より)

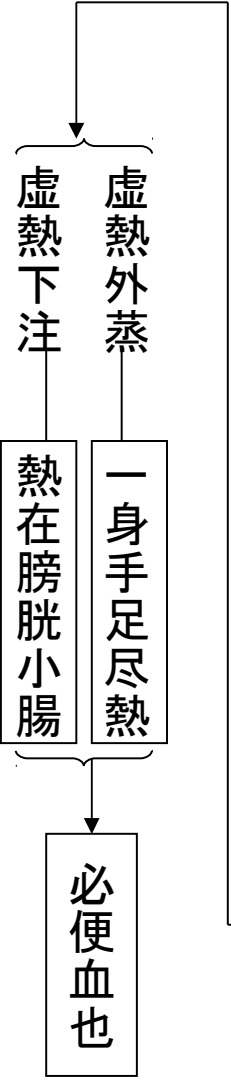
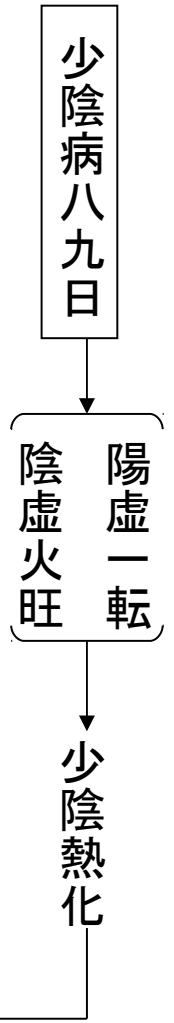
第二九二条 少陰病、吐、利、手足不逆冷、反発熱者、不死。

脉不至者、灸少陰七壯。



第二九三条 少陰病、八九日、一身手足尽熱者、以熱在膀胱、

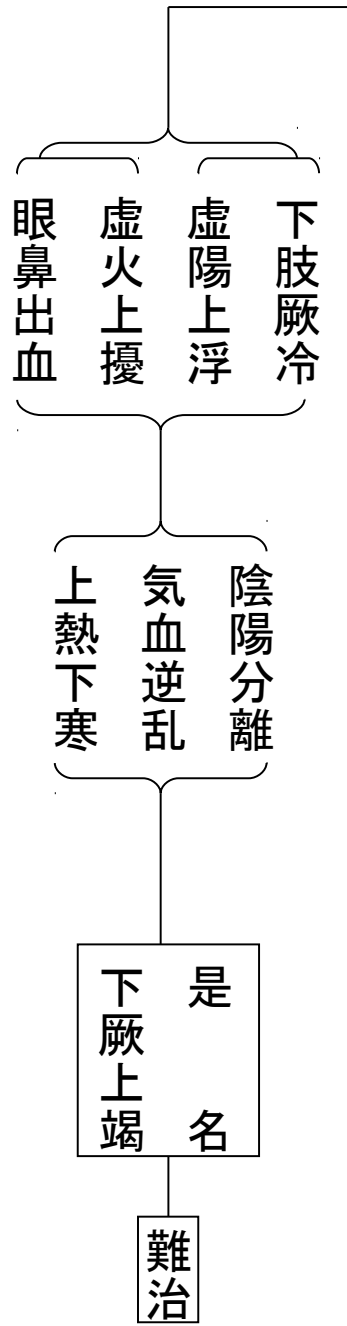
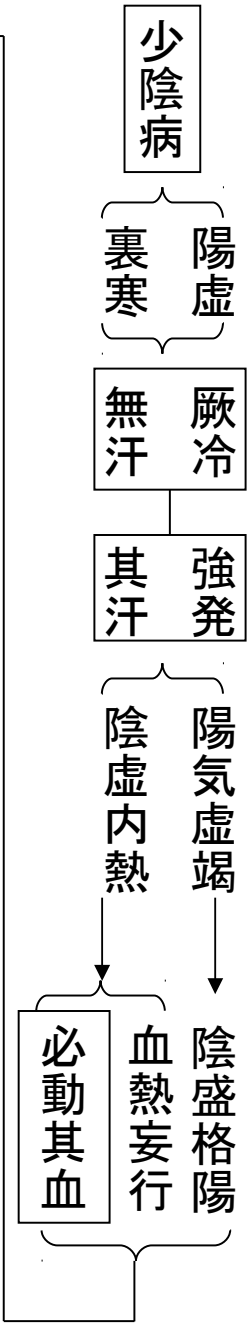
必便血也。



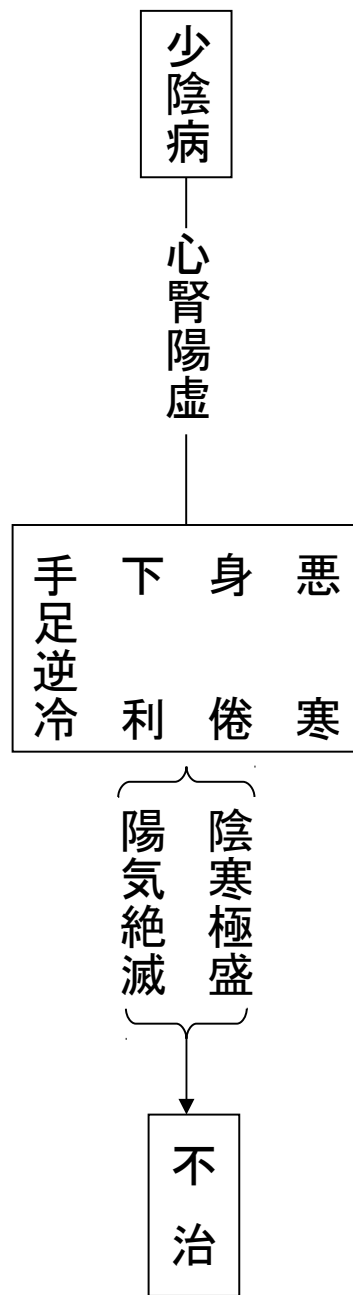
第二九四條 少陰病、但厥、無汗、而強發之、必動其血。未知從

何道出、或從口鼻、或從目出者、是名下厥上竭、爲

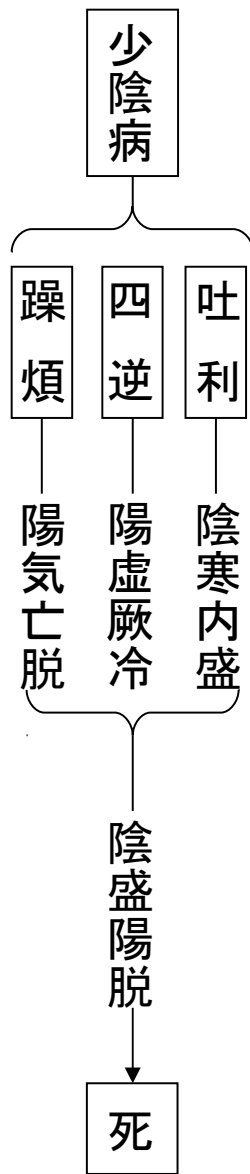
難治。



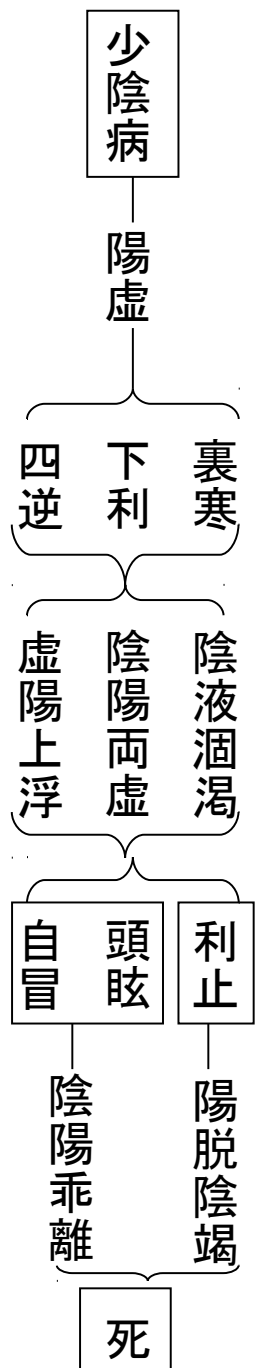
第二九五条 少陰病、惡寒、身倦而利、手足逆冷者、不治。



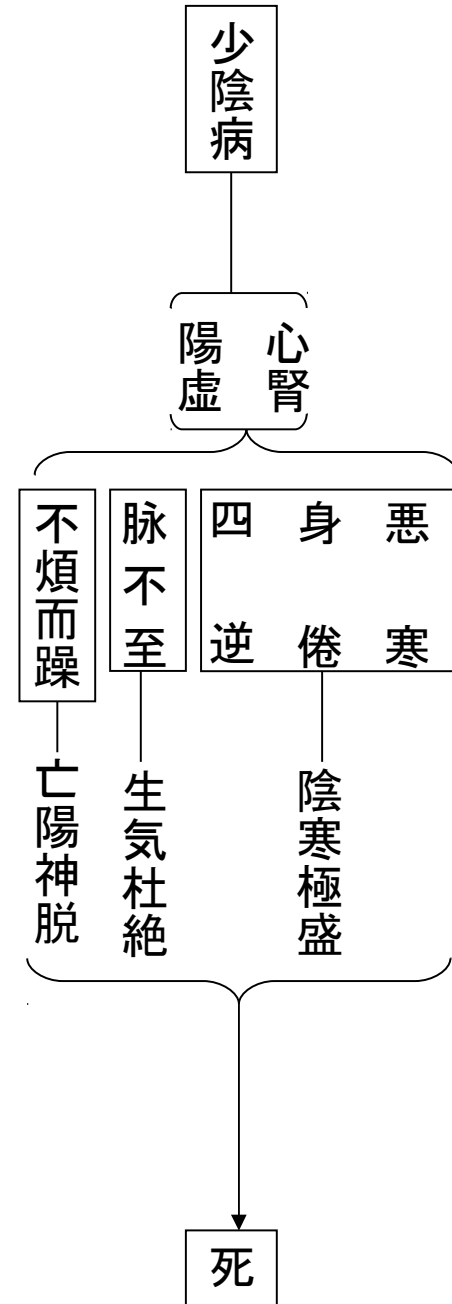
第二九六条 少陰病、吐、利、躁煩四逆者、死。



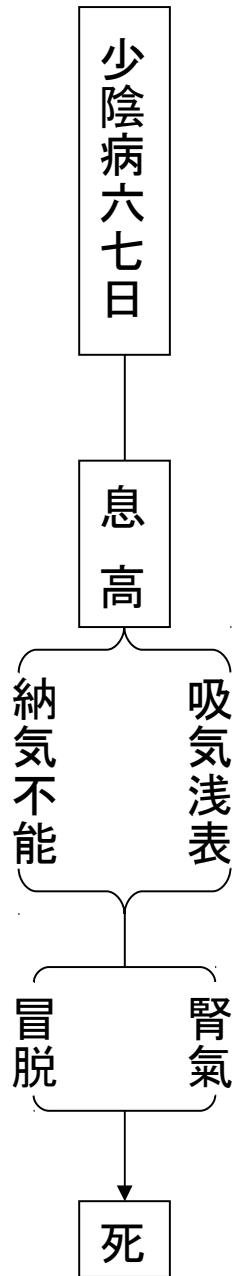
第二九七条 少陰病、下利止而頭眩、時々自冒者、死。



第二九八条 少陰病、四逆、惡寒而身倦、脉不至、不煩而躁者、死。

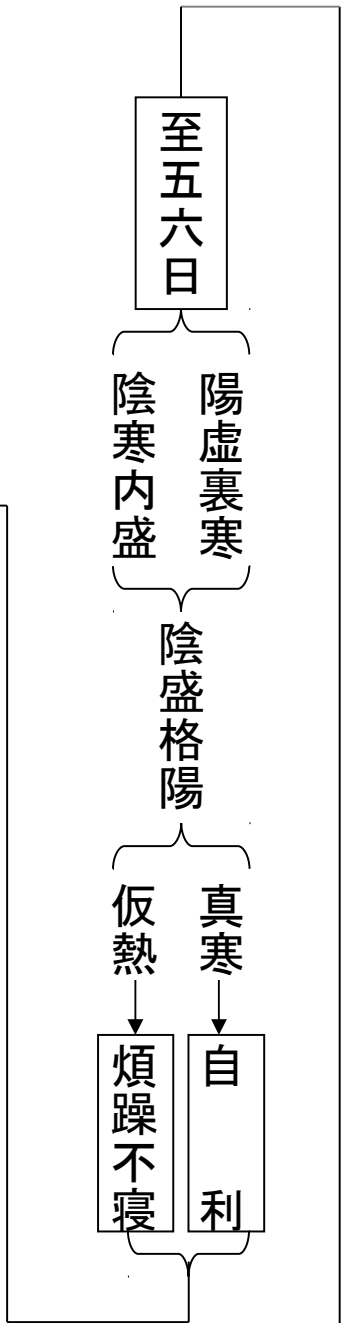
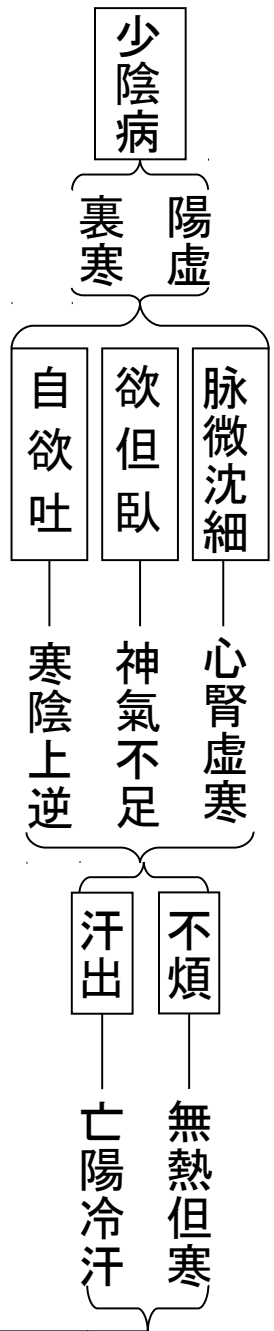


第二九九条 少陰病六七日、息高者、死。



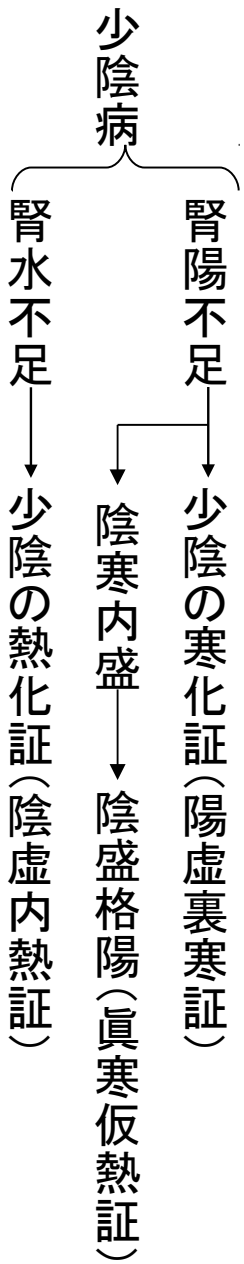
第三〇〇条 少陰病、脉微細沈、但欲臥、汗出不煩、自欲吐、

至五六日自利、復煩躁不得臥寢者、死。



補遺

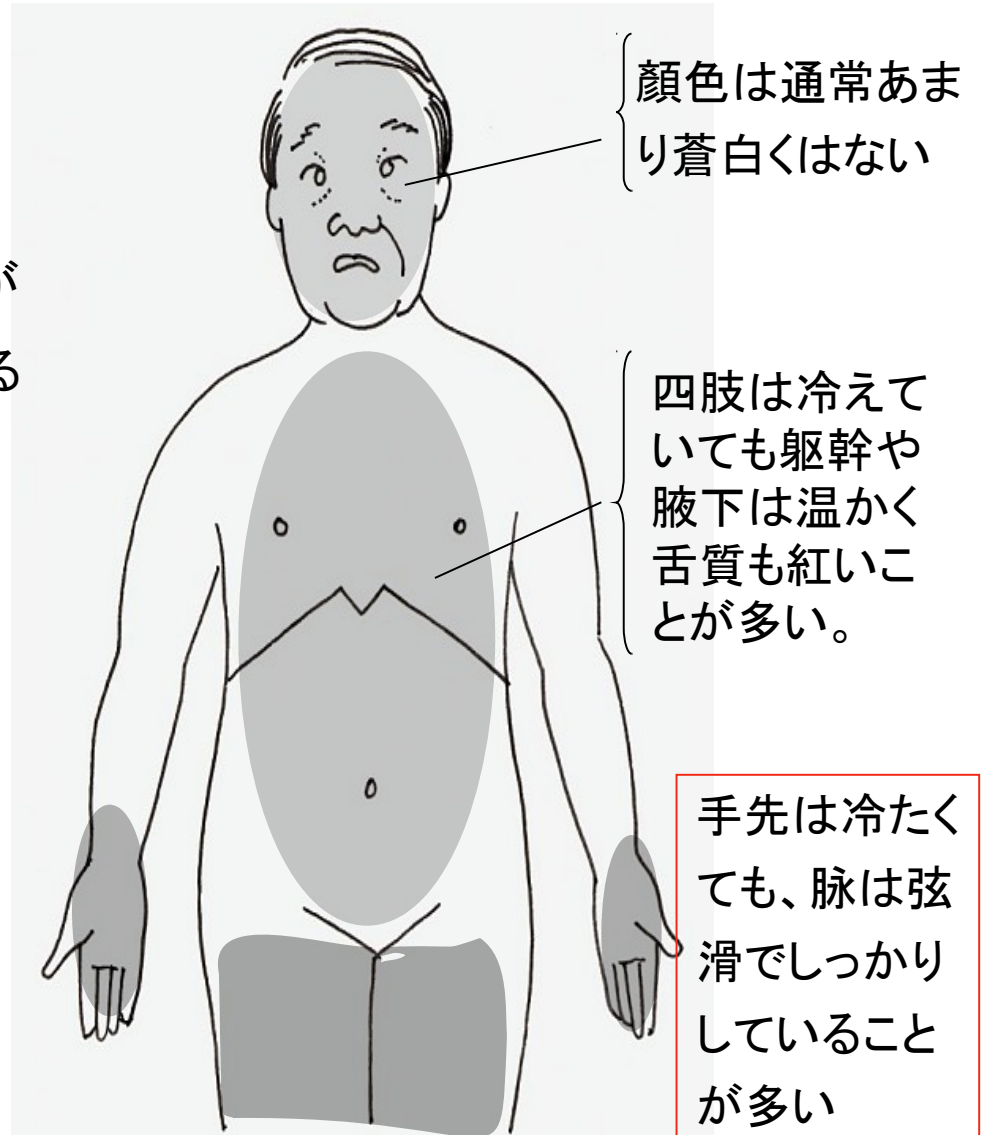
少陰病は心腎の虚に起因する裏証なので、主証は腎陽虚であるが、
体質的に腎陽が不足したヒトは陽虚の虚寒証、腎水が不足したヒトは陰虚の虚熱証になる。虚寒証の中には眞寒假熱証も見られる。



眞寒仮熱証と眞熱仮寒証



眞寒仮熱証



眞熱仮寒証

陰虛火旺と陰盛格陽の熱証

どちらも熱が
浮上して熱証
を呈す

舌色は紅で
乾燥している

陽気正常
陰水不足

陰水が弱く陽気
を抑制できない

弱い陽熱
強い陰寒

舌色は淡で
湿潤している

陰盛格陽
(虚陽上浮)

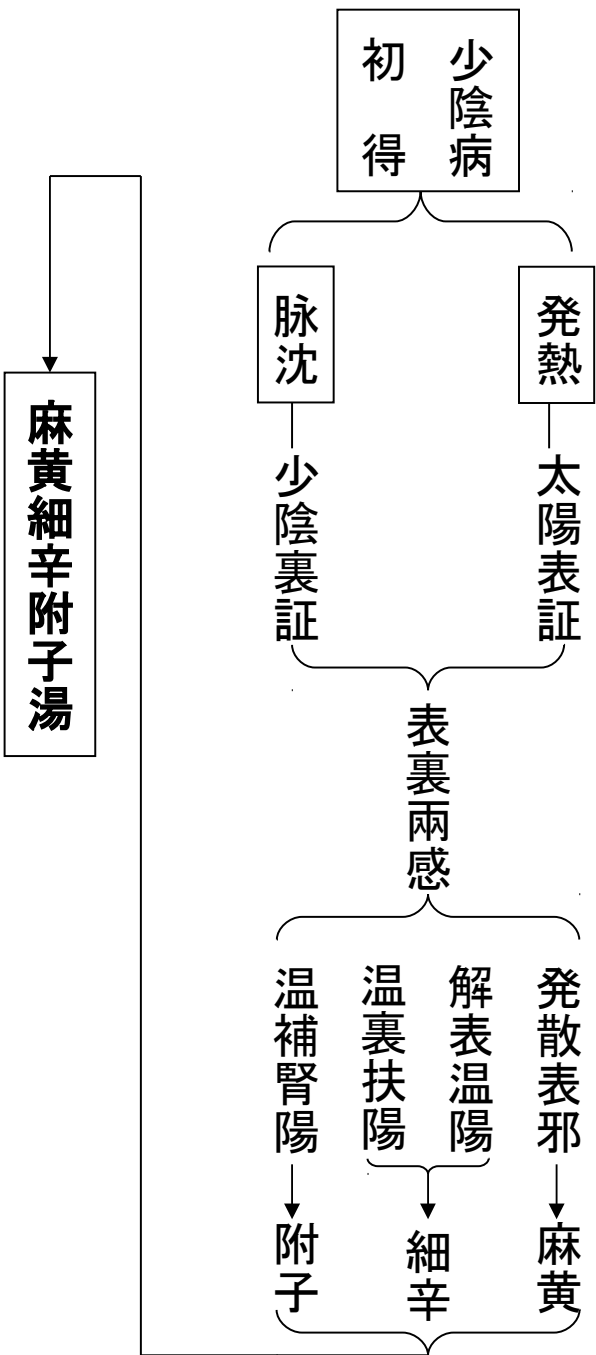
強い陰寒は
貧弱な陽熱
を拒み駆逐

陰虛火旺

陰盛格陽

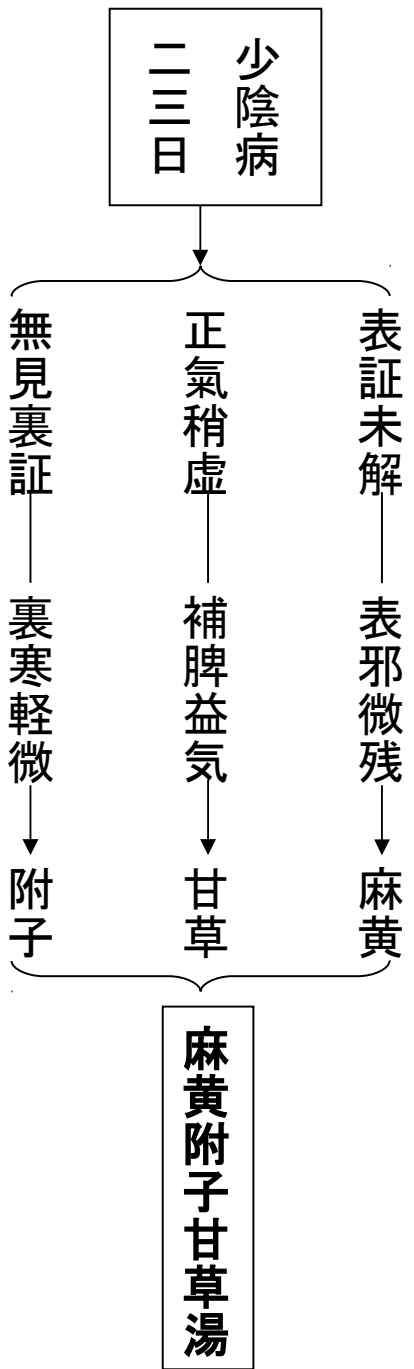
（少陰病表裏兩感証①）

第三〇一条 少陰病始得之、反發熱、脉沈者、麻黄細辛附子湯主之。



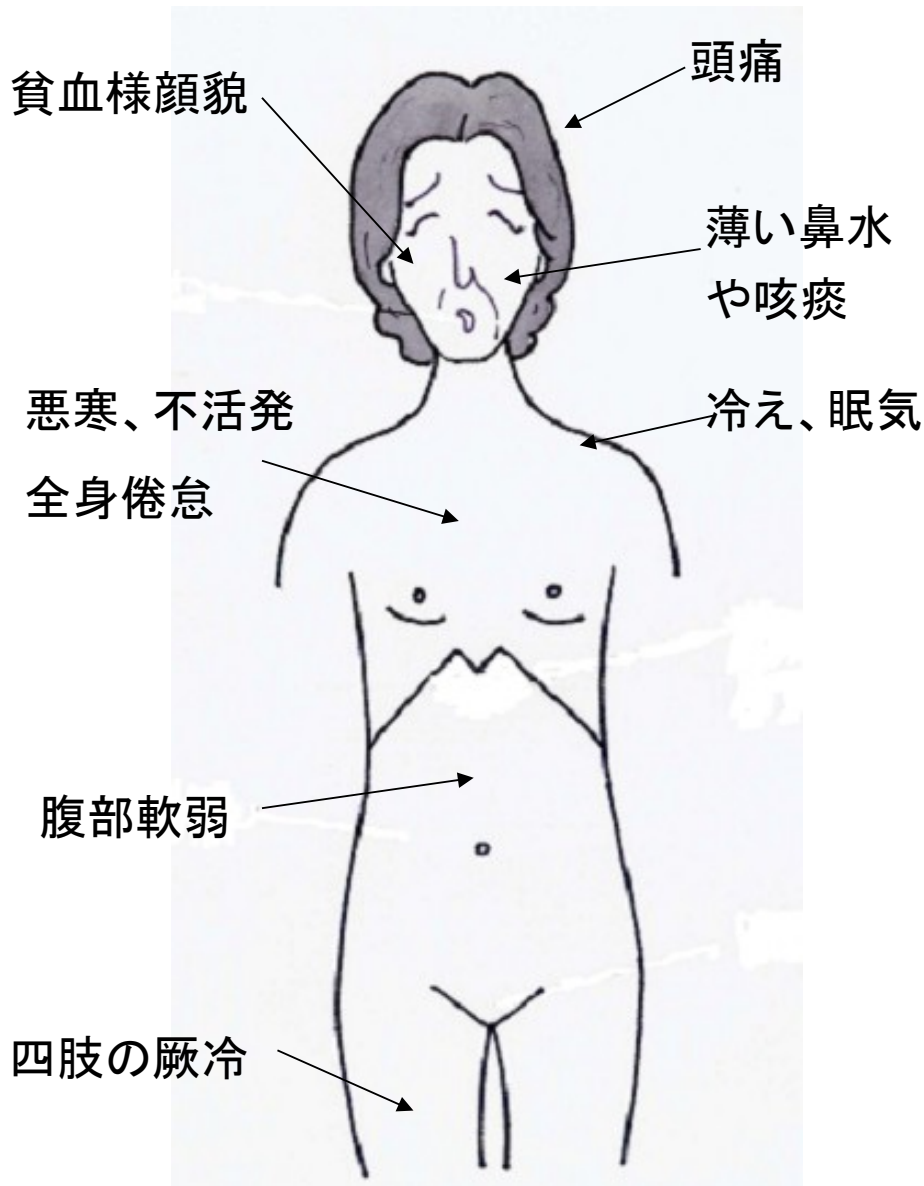
（少陰病表裏兩感証②）

第三〇二条 少陰病、得之二三日、麻黄附子甘草湯微發汗。以二三日無証、故微發汗也。



表裏両感証は

麻黄細辛附子湯の証*



方意

陽虚冷え症体質の者が風寒の邪に外感して、太陽病と少陰病を同時に発症する表裏両寒証である。

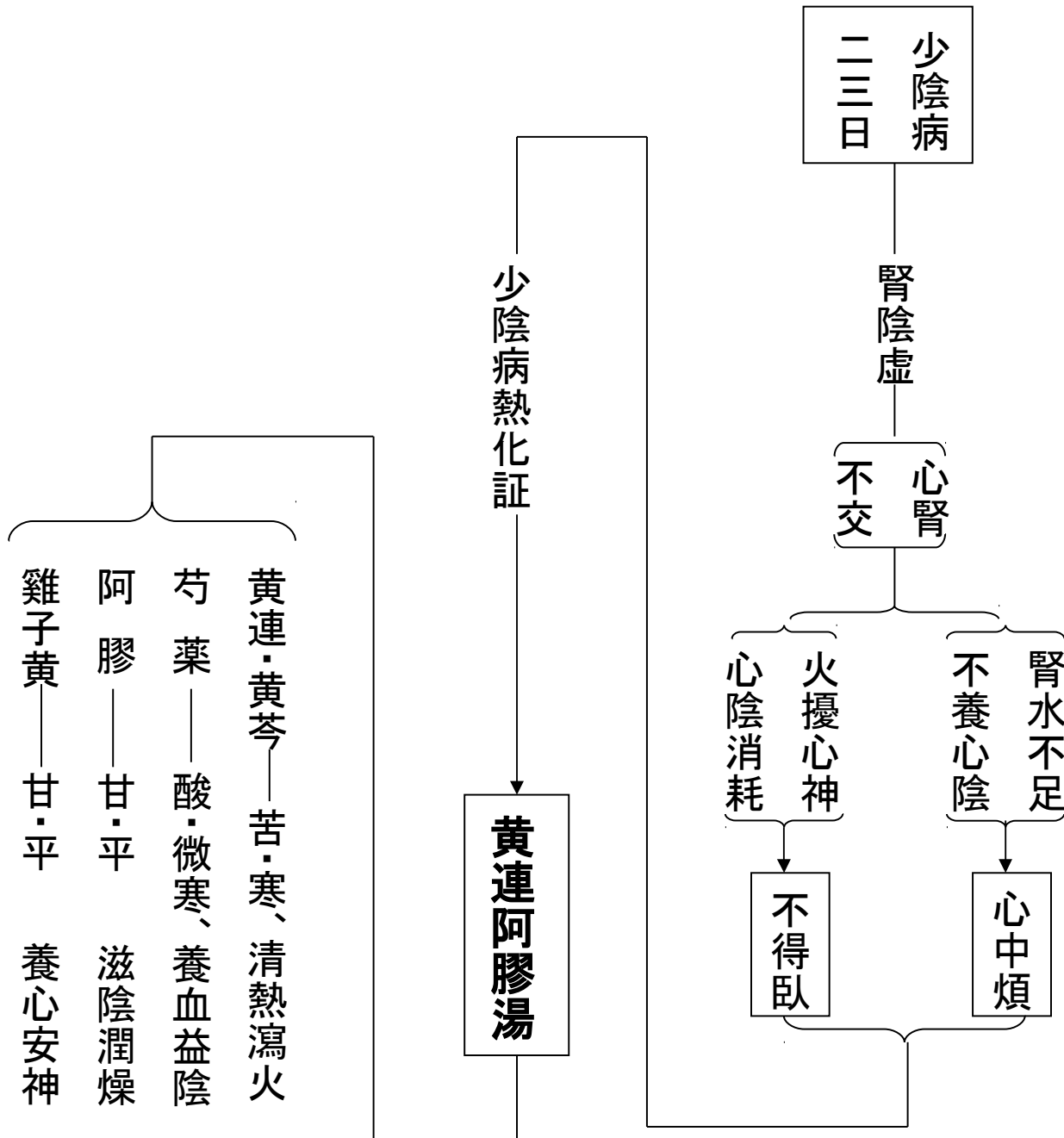
悪寒が強く四肢が冷え、元気が無く不活発で、倦怠感や眠気などを訴える。

弁証のTrias

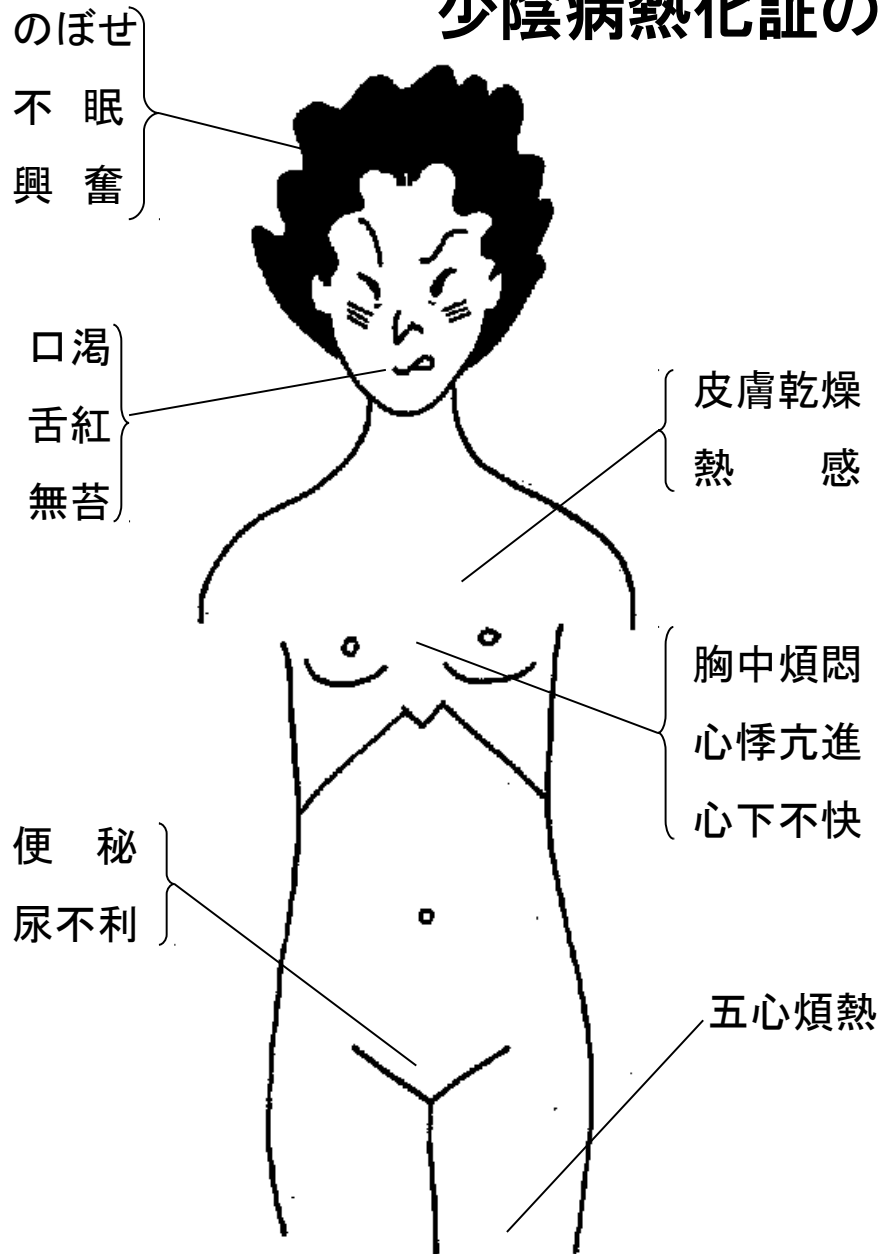
- 1) 悪寒が顕著、手足の冷え。
- 2) 脈は沈微。舌は淡白。
- 3) 腹部軟弱、不活発。

(少陰病熱化証)

第三〇三条 少陰病、得之二三日以上、心中煩、不得臥、黃連
阿膠湯主之。



少陰病熱化証の基本処方は**黄連阿膠湯***



方意

少陰病では腎の陽気が不足する人は陽虚裏寒証を呈し、腎水が不足する人は陰虚熱火証を呈する。

本方は少陰病の熱化証に対する基本処方である。

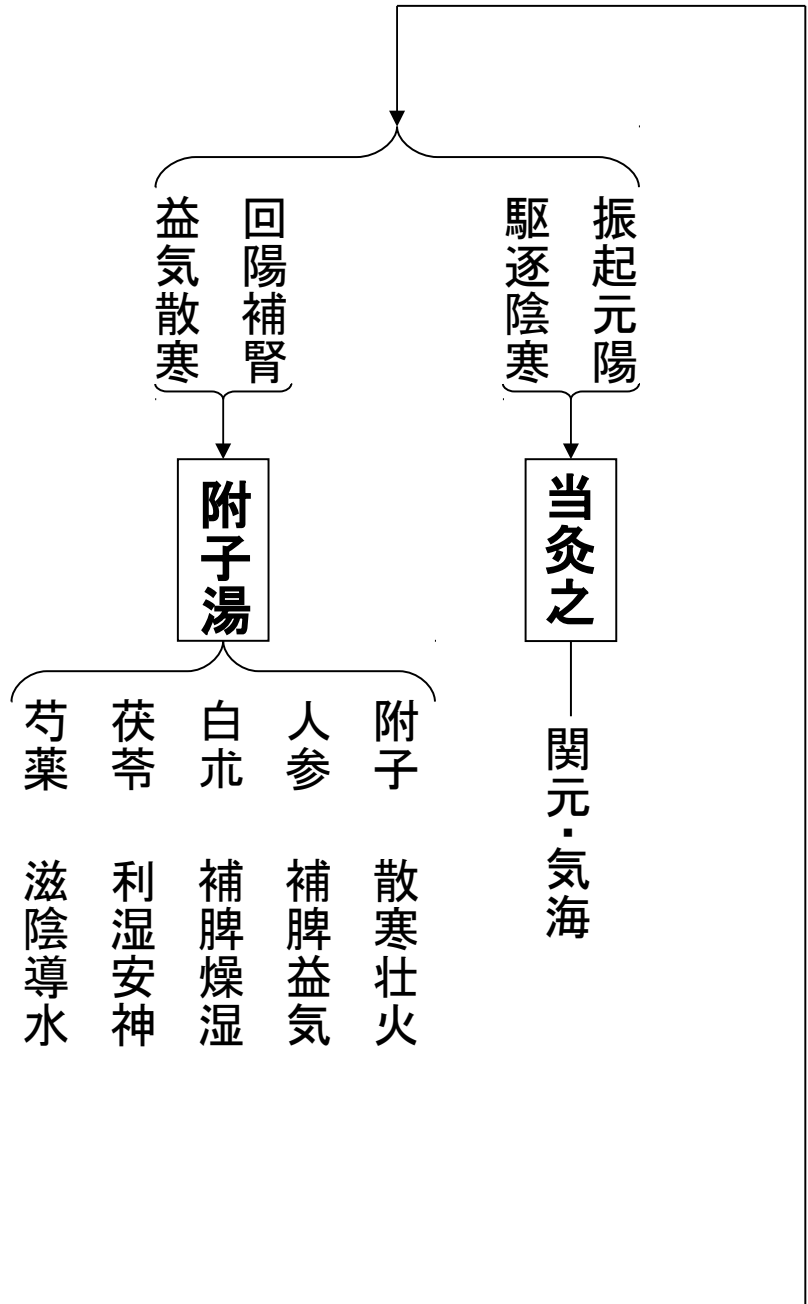
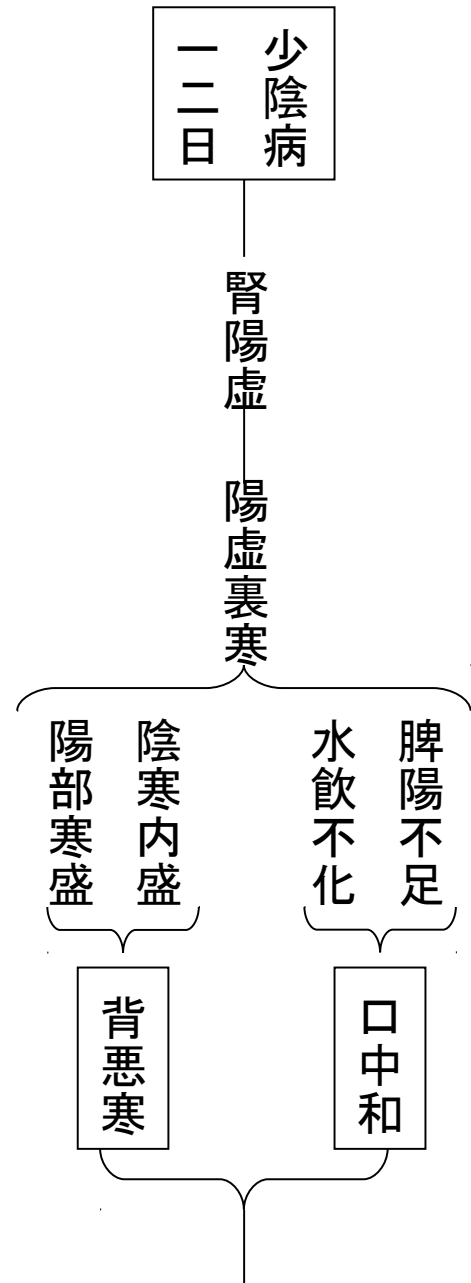
津液が不足して乾燥傾向、熱証を呈し煩躁する。

弁証のTrias

- 1) 心中煩躁して、不眠、焦燥
- 2) 顔面紅潮、のぼせ、興奮
- 3) 乾燥、口渇、舌紅無苔

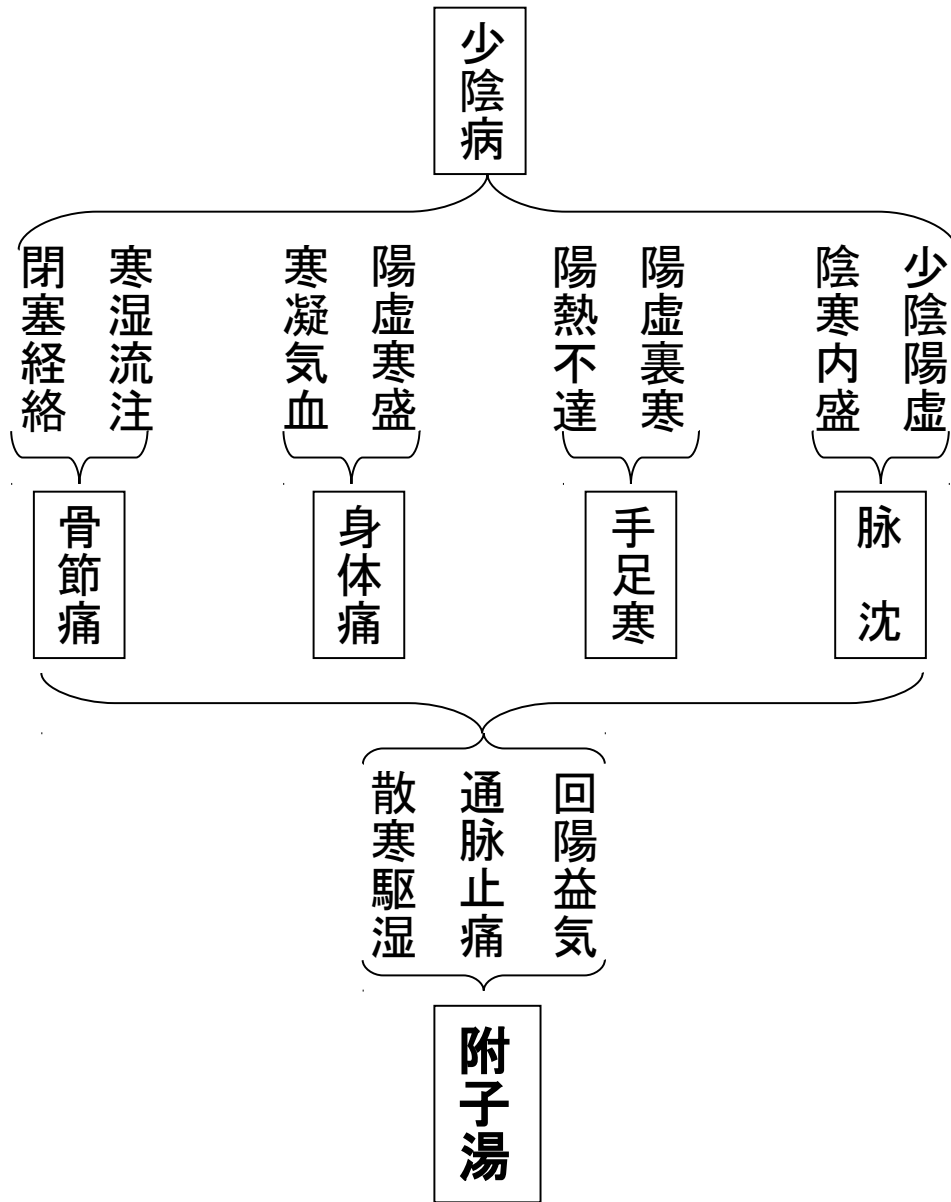
(少陰病陽虛、背寒)

第三〇四条 少陰病、得之一二日、口中和、其背惡寒者、当灸之、附子湯主之。



(少陰病、裏寒身痛)

第三〇五条 少陰病、身体痛、手足寒、骨節痛、脉沈者、附子湯
主之。



少陰裏寒の身痛は

附子湯の証

方意

少陰病腎陽虚で全身の虚寒証が顕著に現れているもので、全身の悪寒、身体痛、背寒などがある者を治す。

本方の機能は温腎補脾・祛除寒湿。

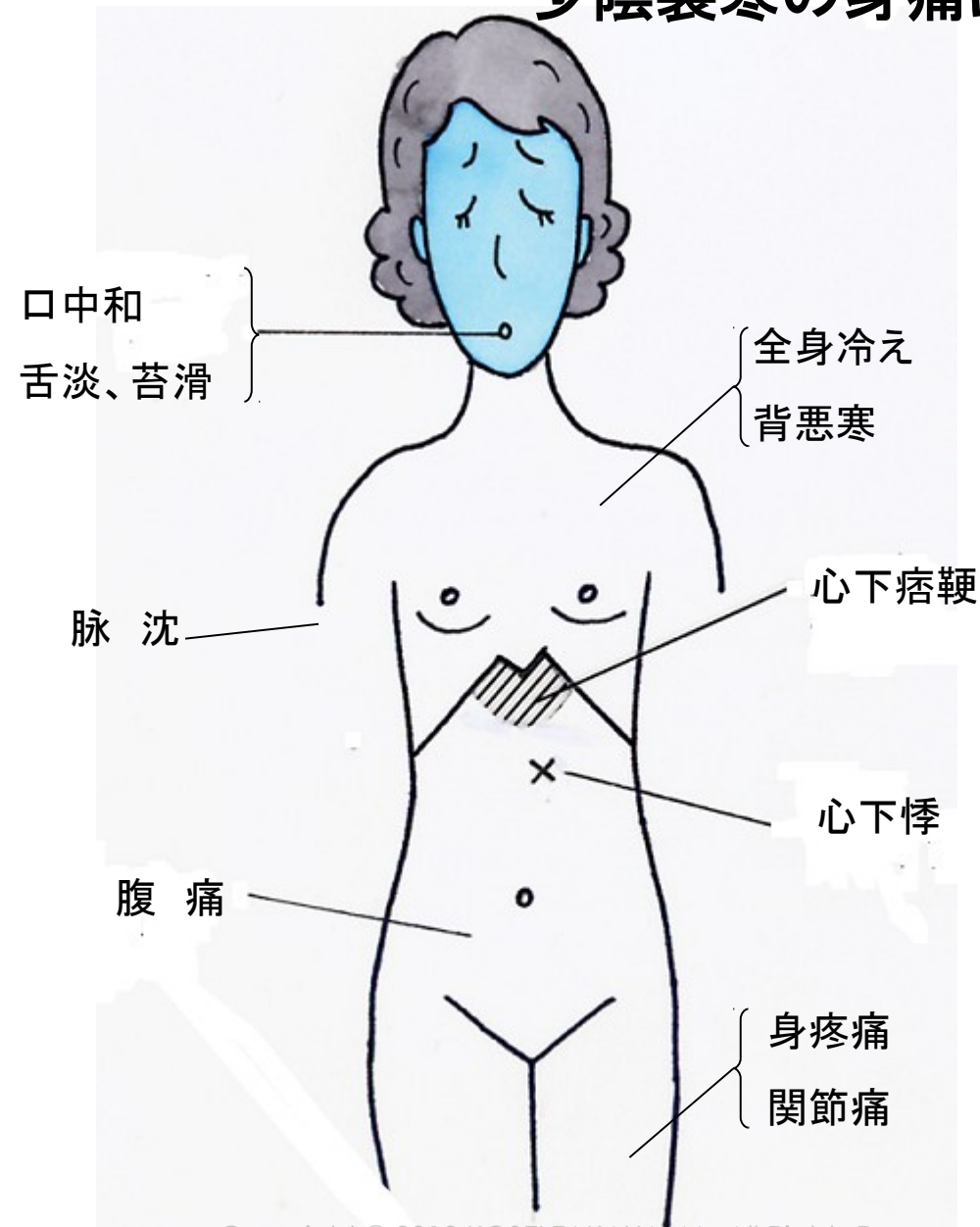
冷えの著しい者は灸を併用する。

弁証のTrias

- 1)冷えが強く、悪寒、身痛麻痺
- 2)手足の冷え顕著、関節腫痛
- 3)脉沈、口中和（口渴が無い）

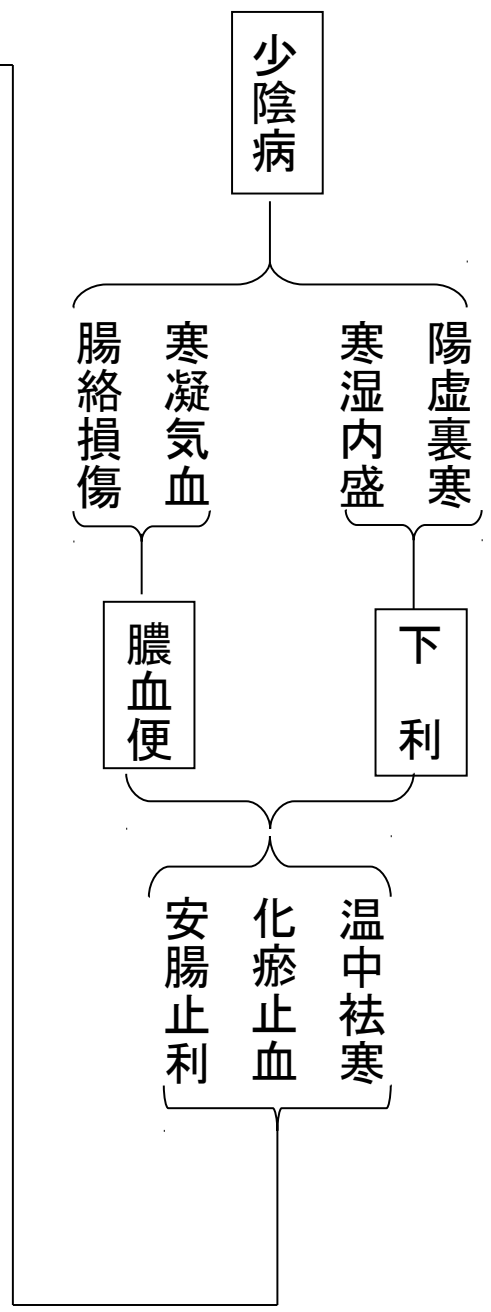
類方鑑別

真武湯:裏寒水泛に因る冷え、眩暈、下利、下利腹痛など、本方は悪寒と身痛が顕著。



(少陰病、膿血便下利①)

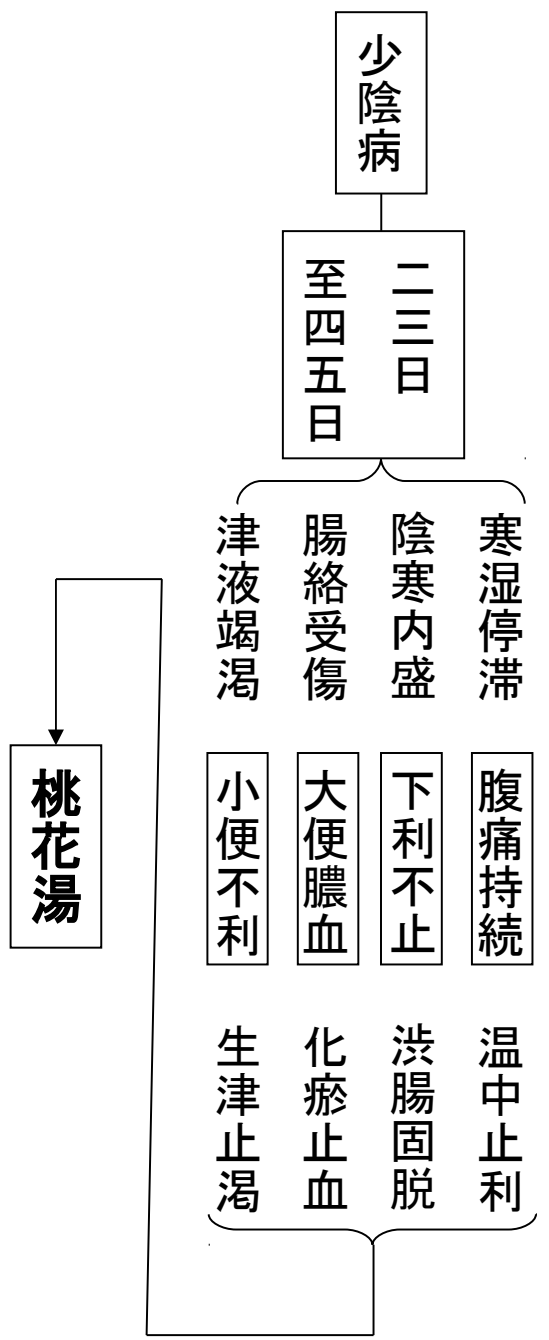
第三〇六条 少陰病、下利便膿血者、桃花湯主之。



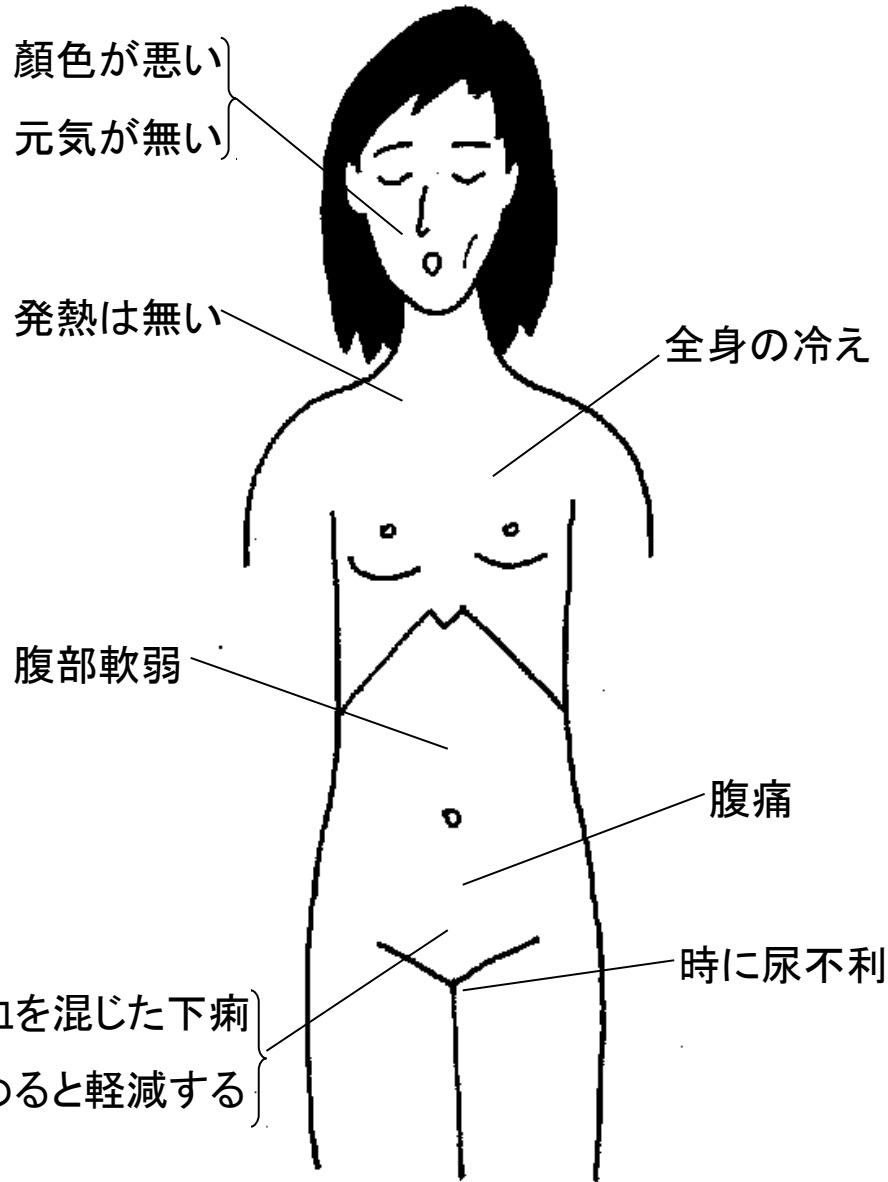
(少陰病、膿血便下利②)

第三〇七条 少陰病、二三日至四五日、腹痛、小便不利、下利

不止、便膿血者、桃花湯主之。



少陰病の膿血下利は 桃花湯の証*



方意

少陰病で腎陽不足に因る虚寒性の下痢に加え、腸絡の損傷(気血の寒凝に因り腸粘膜の組織も損傷した)も合併して膿血を混えるようになった。

下痢が続くと脱津して尿不利を伴う。

弁証のTrias

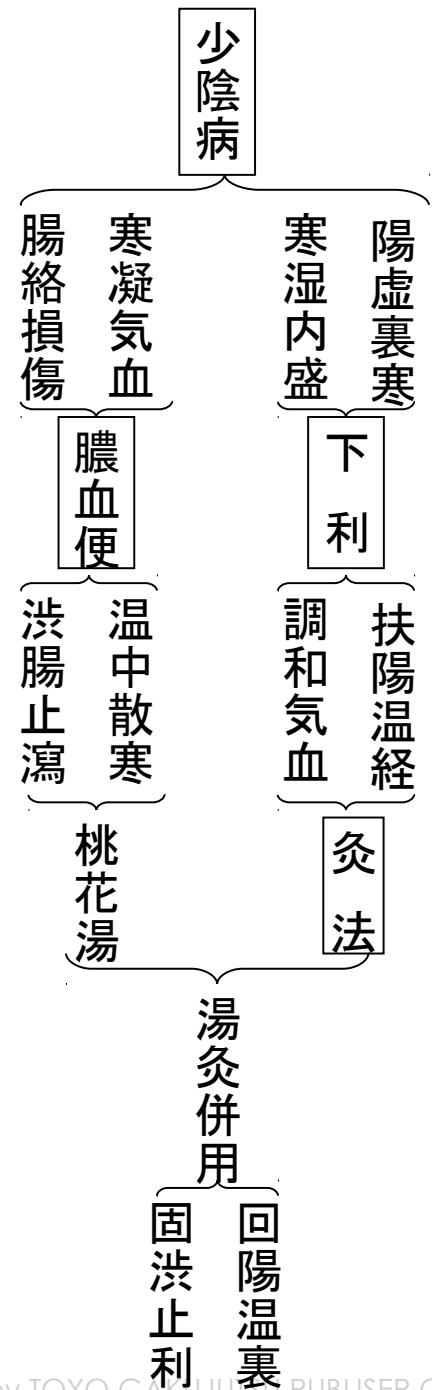
- 1) 下痢腹痛、膿血便
- 2) 寒性下痢で、冷えが顕著
- 3) 発熱や裏急後重が無い

類方鑑別

真武湯: 全身の冷えと下痢。膿血便は無い

(少陰病、膿血便下利③)

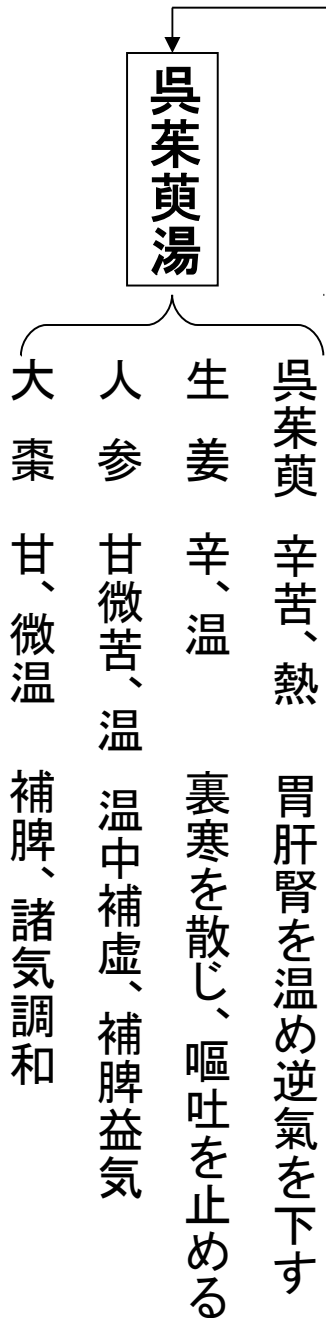
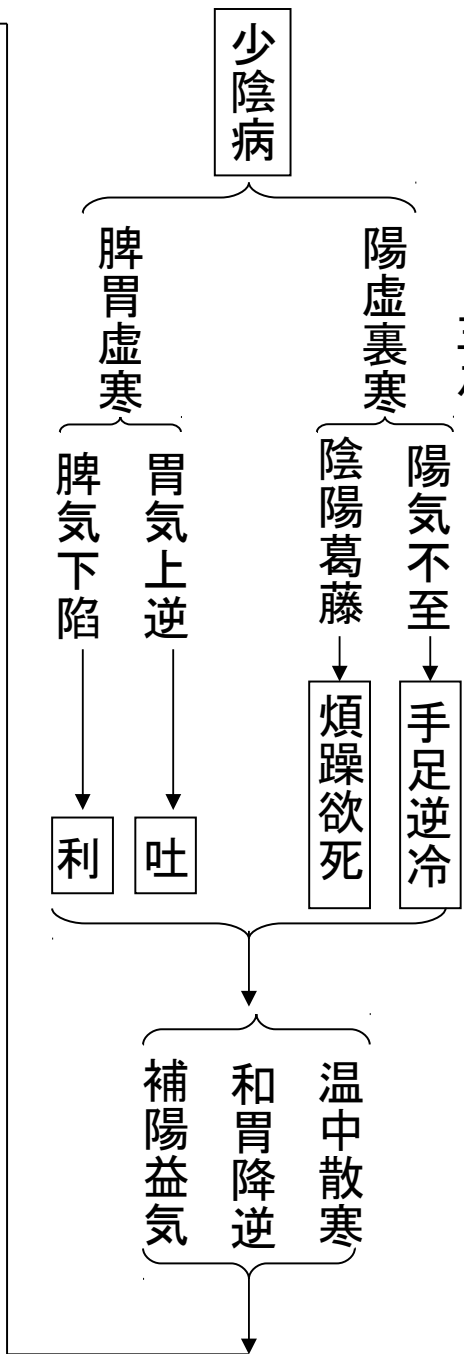
第三〇八条 少陰病、下利便膿血者、可刺。



(少陰病、陰陽葛藤)

第三〇九条 少陰病、吐利、手足逆冷、煩躁欲死者、吳茱萸湯

主之。



陽虚裏寒の嘔逆、厥冷、煩躁は

呉茱萸湯の証*

方意

(再掲)

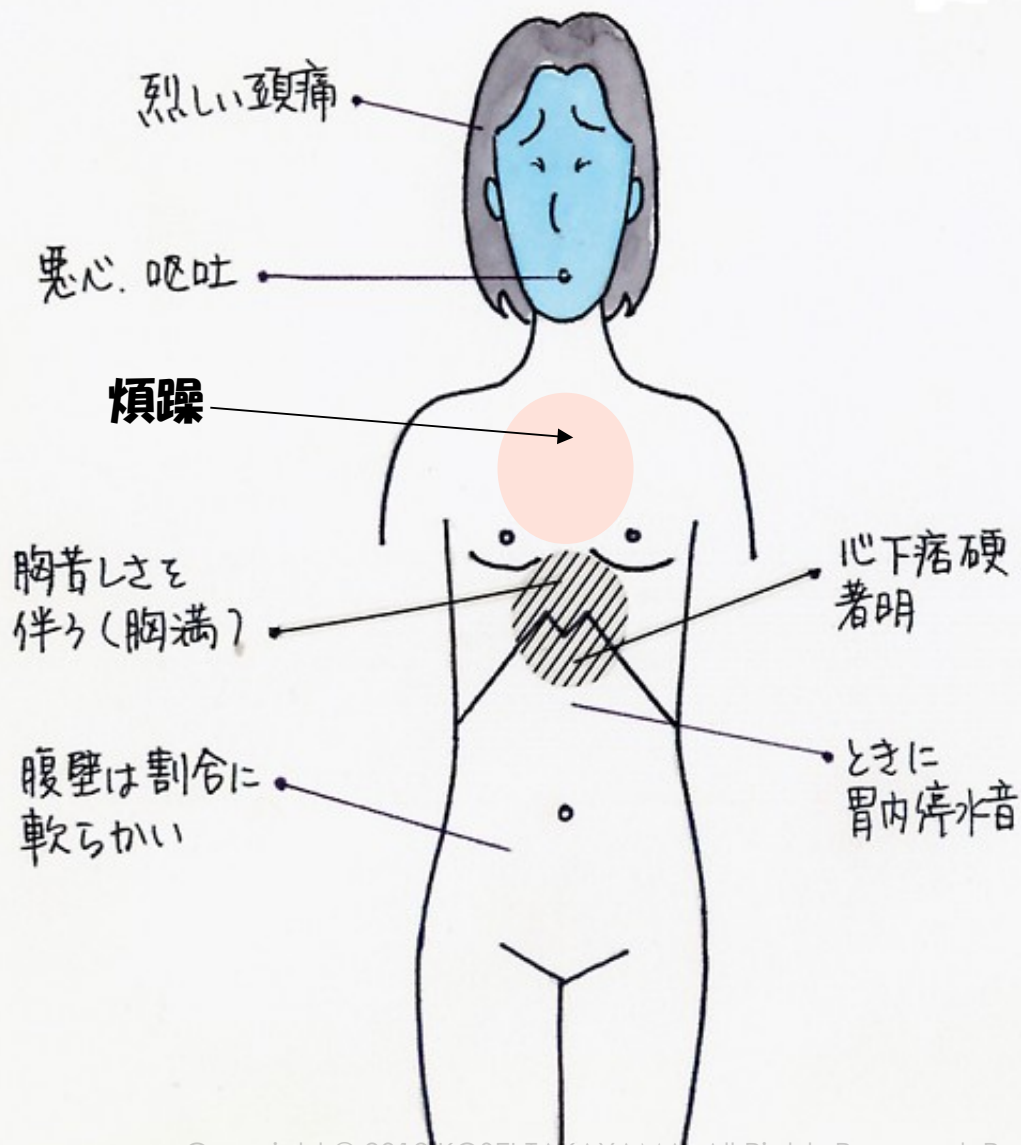
陽明病の胃寒証で食後悪心嘔吐を生じる者、

少陰病で吐利、手足逆冷、煩躁して死せんと欲す者、

厥陰病で乾嘔して涎沫を吐し、頭痛する者をいずれも主治する。

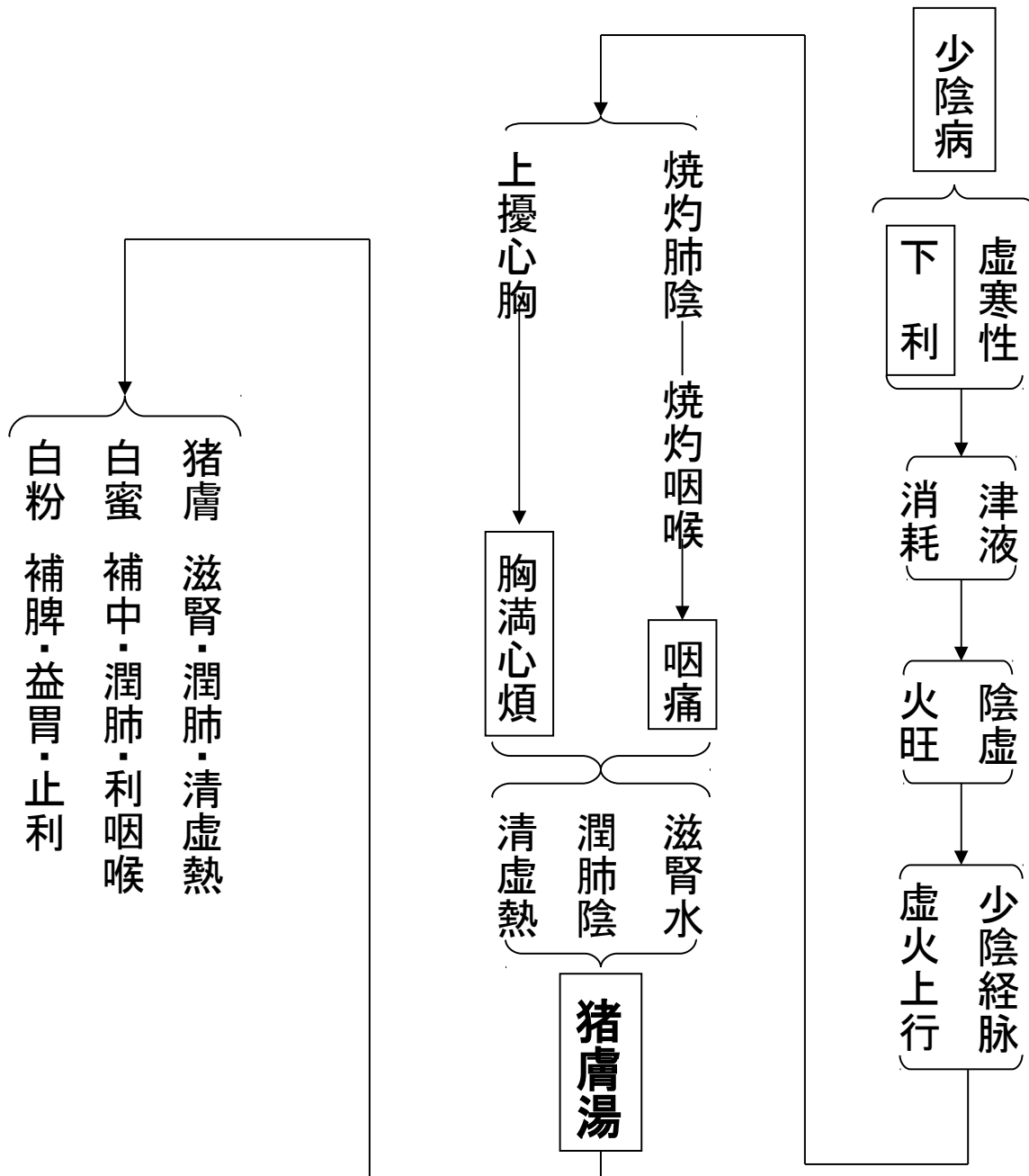
陽明病の嘔吐は胃が冷えて食を受け付けない結果である。

少陰病の吐利と手足厥逆は陰寒内盛に因る。煩躁は残存した僅かな陽気が裏で陰寒と相争うからである。厥陰病の乾嘔、吐涎沫、頭痛は厥陰の寒気上逆に因るものである。



(少陰病咽痛①)

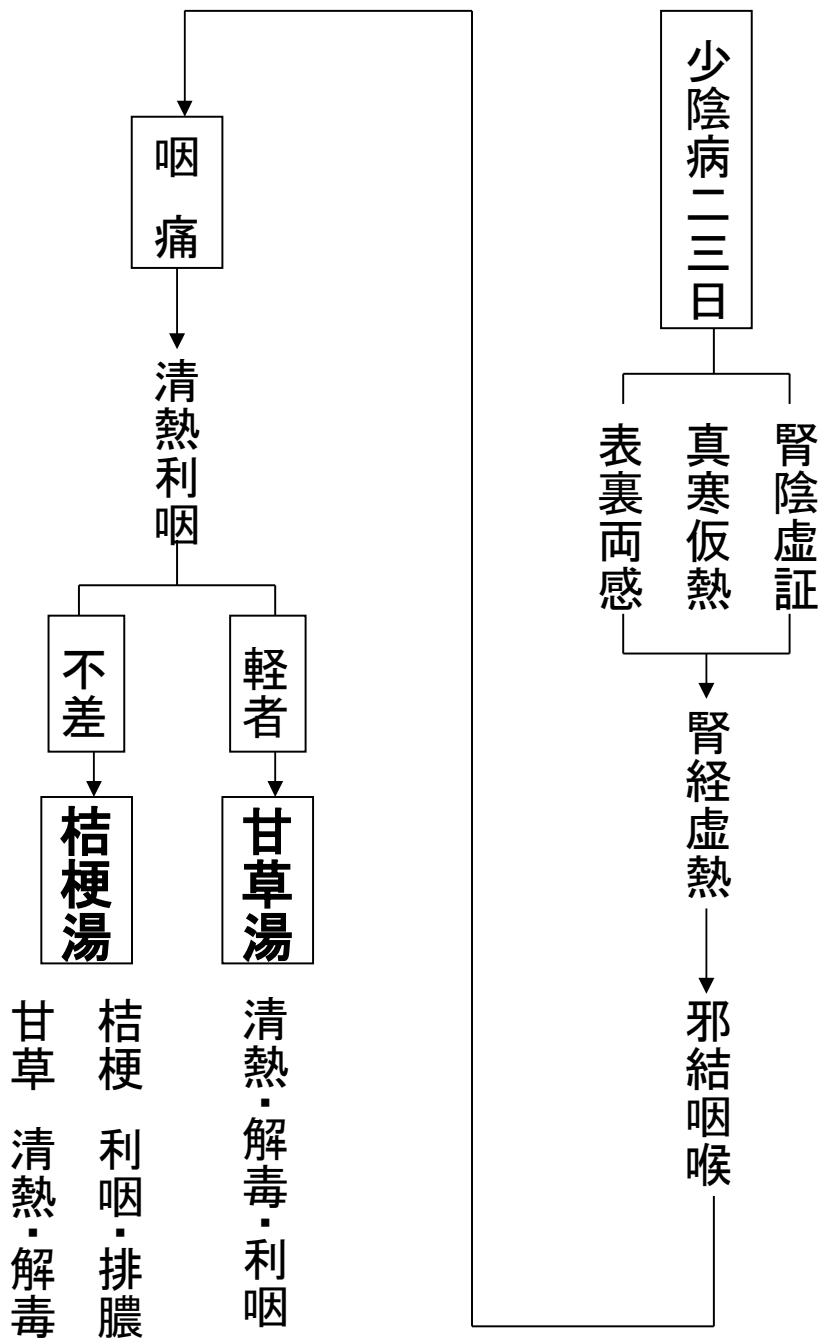
第三一〇条 少陰病、下利、咽痛、胸滿、心煩、猪膚湯主之。



(少陰病咽痛②)

第三一一條 少陰病二三日、咽痛者、可與甘草湯。不差、與

桔梗湯。



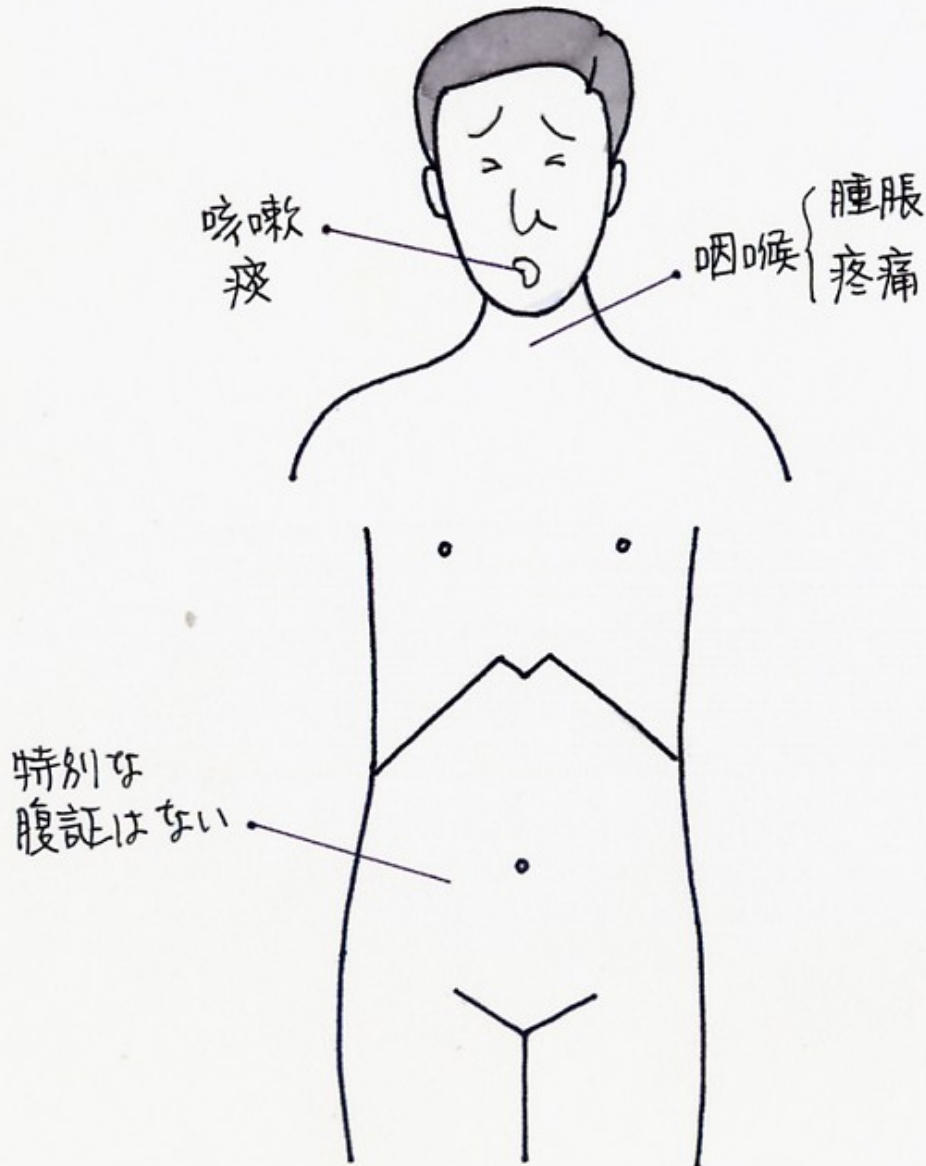
少陰病の咽痛は 桔梗湯の証

方意

少陰病の咽喉痛を主治する。
少陰病、腎水不足に因る陰虛火旺、
少陰病、陽虛寒盛に因る虚陽上浮、
或は少陰腎経が風寒の邪に外感、
邪が少陰腎経脉を伝って上行し、
咽喉部に結衆して、咽痛、腫脹、
膿癰、咳嗽、喀痰などを生じる者に
用いる。

弁証のTrias

- 1) 表証無く無熱、脉不定
- 2) 咽喉部の腫れと痛み
- 3) 咳、時に膿性痰



(少陰病咽痛③)

第三一二条 少陰病、咽中傷、生瘡、不能語言、声不出者、

苦酒湯主之。

少陰病

熱化証

燒灼腎經

結於咽喉

咽中傷
生瘡

咽喉部

潰瘍形成

疼痛

不能語言

声帶腫脹

嘎声

声不出

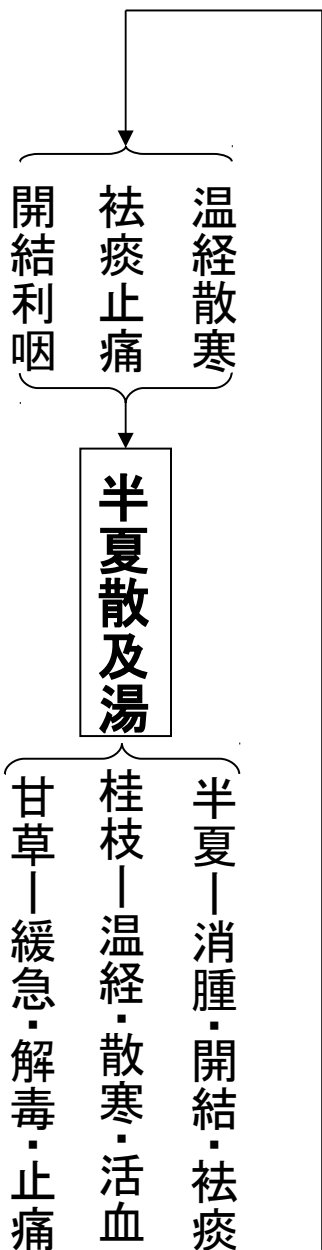
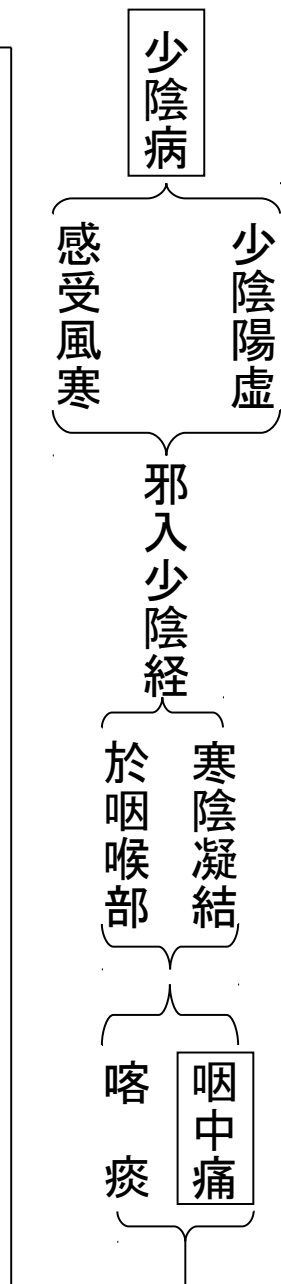
酸苦涼潤
消腫開結
斂瘡止痛

苦酒湯

半夏—滌痰·散結·開喉
苦酒—消炎·止痛
雞子—瘡面保護·止痛

(少陰病咽痛④)

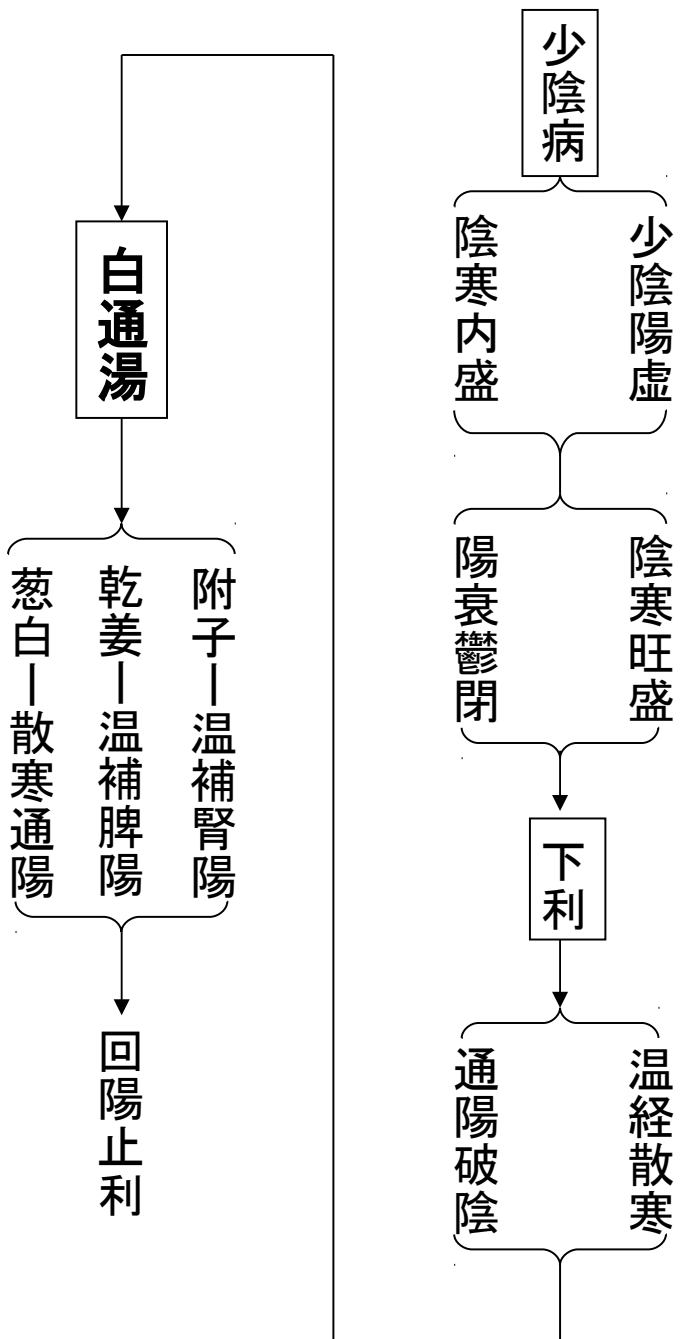
第三一三条 少陰病、咽中痛、半夏散及湯主之。



(半夏有毒、不可散服)

(少陰病虛寒性下利)

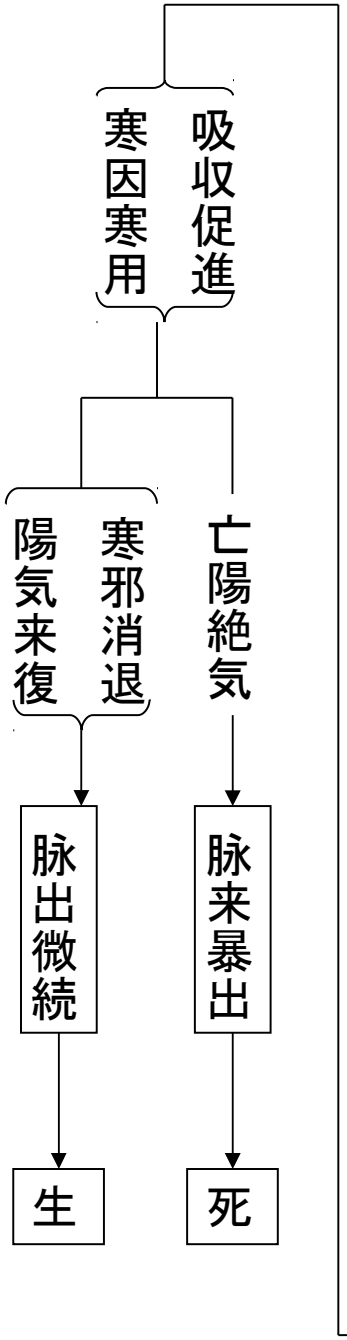
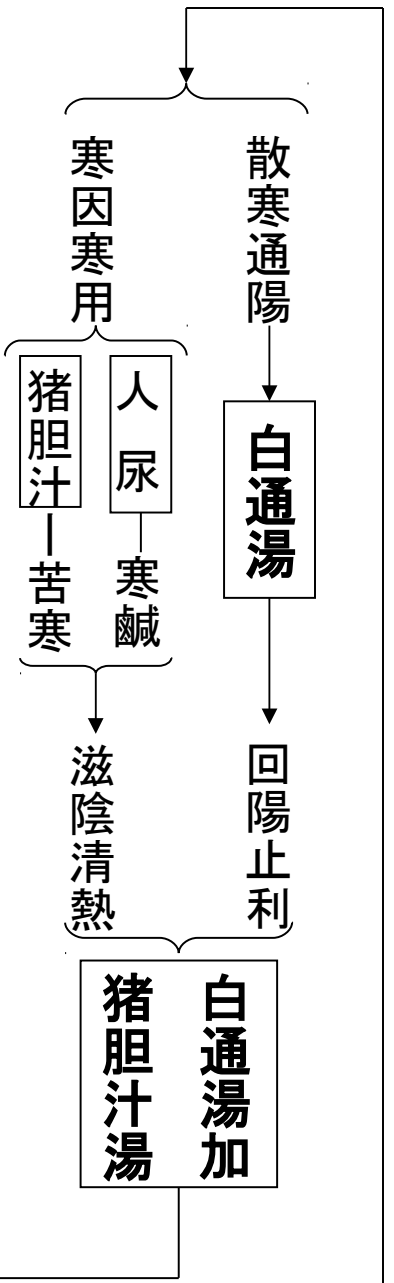
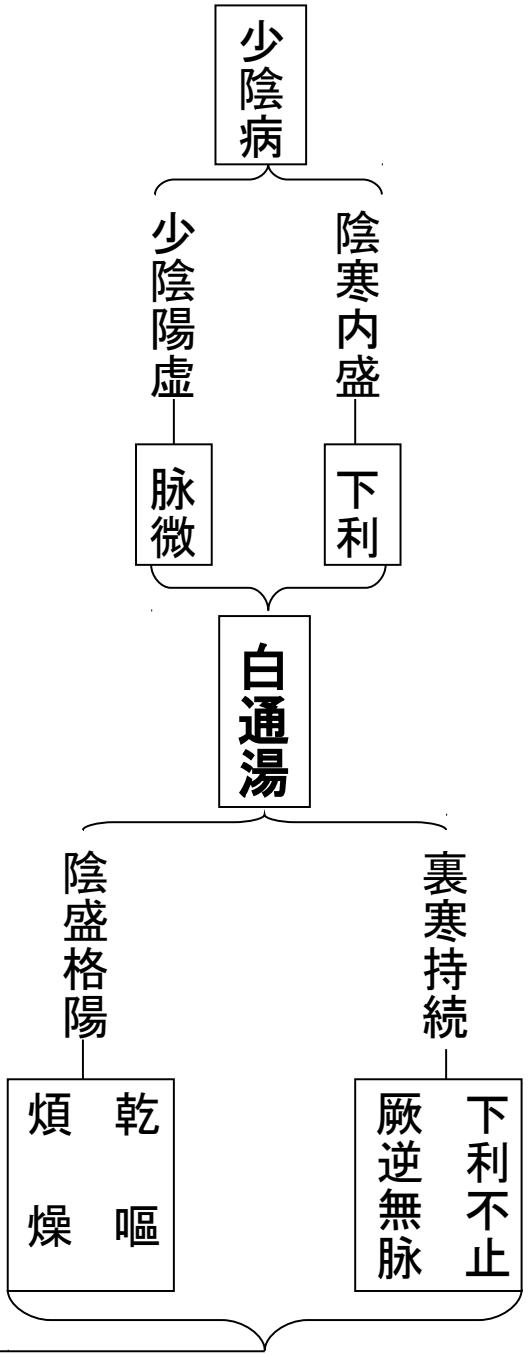
第三一四条 少陰病、下利、白通湯主之。



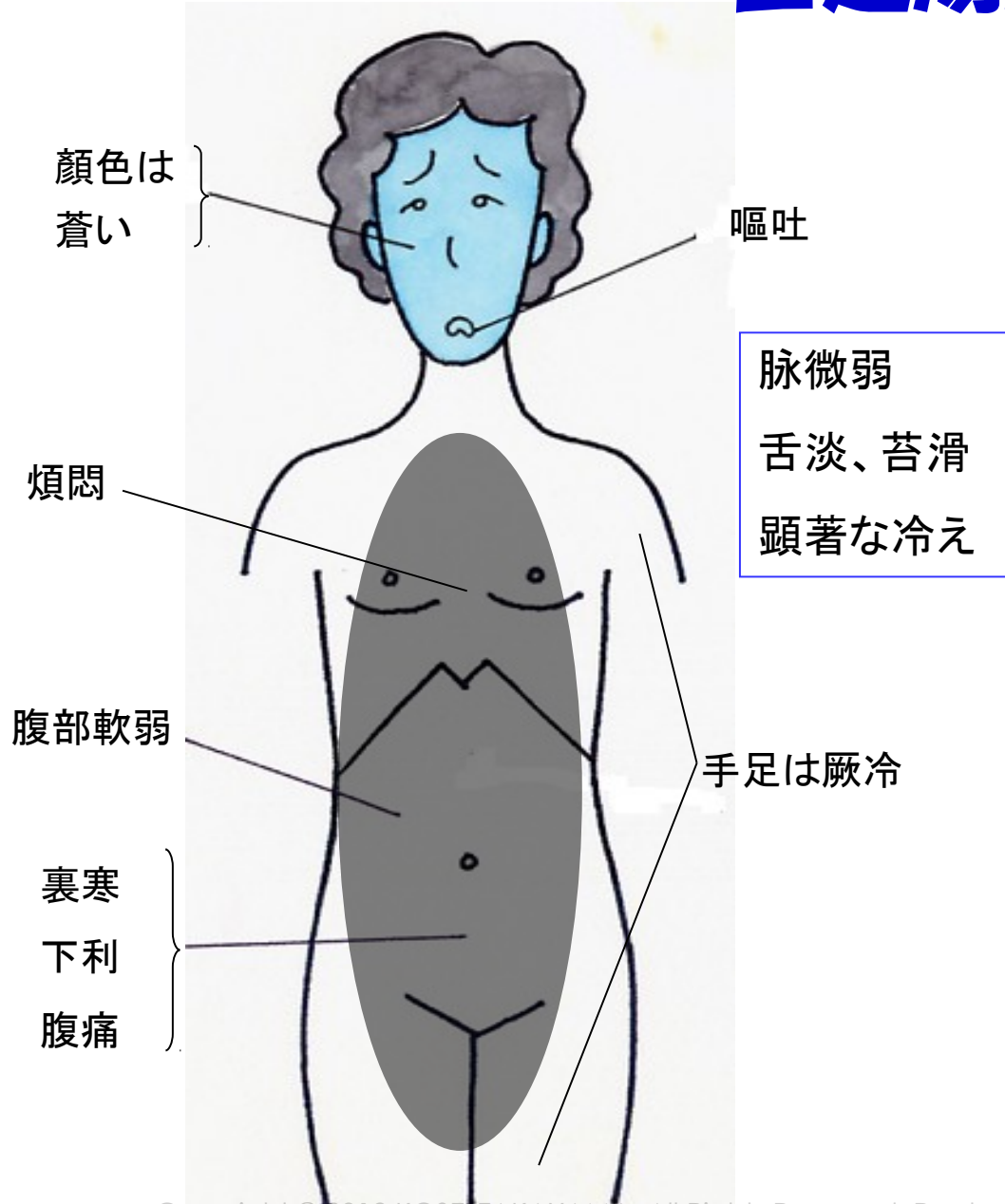
(虚寒下利、陰盛格陽)

第三一五条 少陰病、下利、脉微者、與白通湯。

利不止、厥逆無脉、乾嘔、煩者、白通湯加猪胆汁湯
主之。服湯、脉暴出者死、微續者生。



温補剤無効の少陰虚寒は **白通湯加猪胆汁湯の証**



方意

少陰病陽虚裏寒が著しく、陰寒が旺盛なため、弱い陽気が強い陰寒に抑え込まれて動きが取れなくなっている状態が、白通湯証である。

この場合補陽散寒を試みても、強盛な陰寒が薬を拒絶して受け付けない時は寒因寒用で、寒性滋陰の猪胆汁と人尿を加味する。

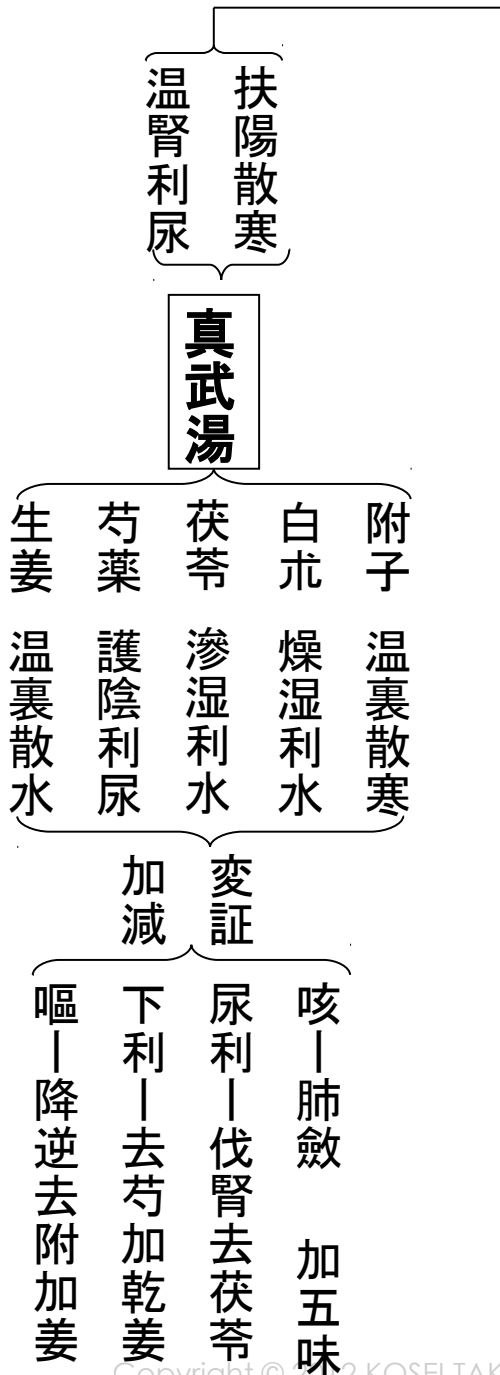
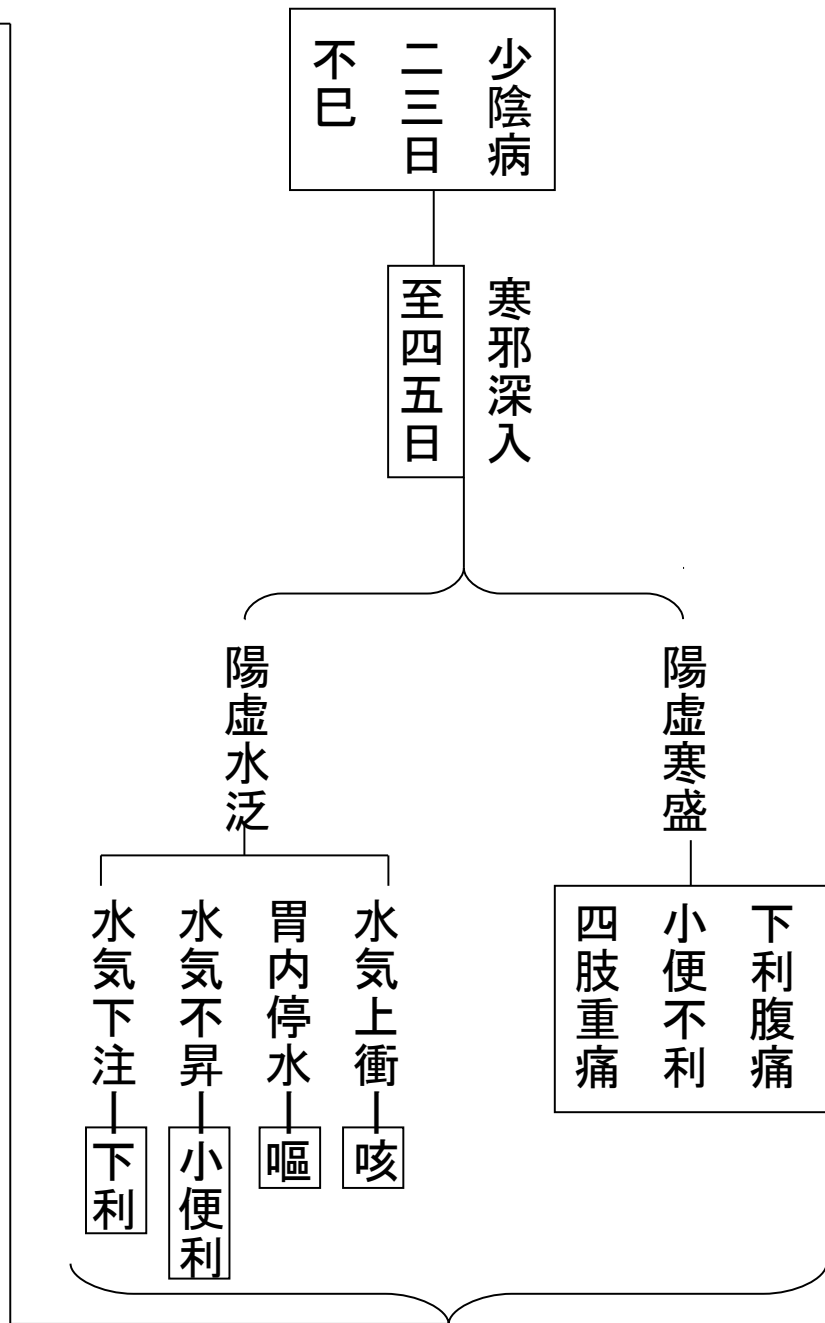
弁証のTrias

- 1) 虚寒性腹痛、下利、嘔吐
- 2) 四肢厥逆、脉微弱
- 3) 他の回陽救逆剤が無効

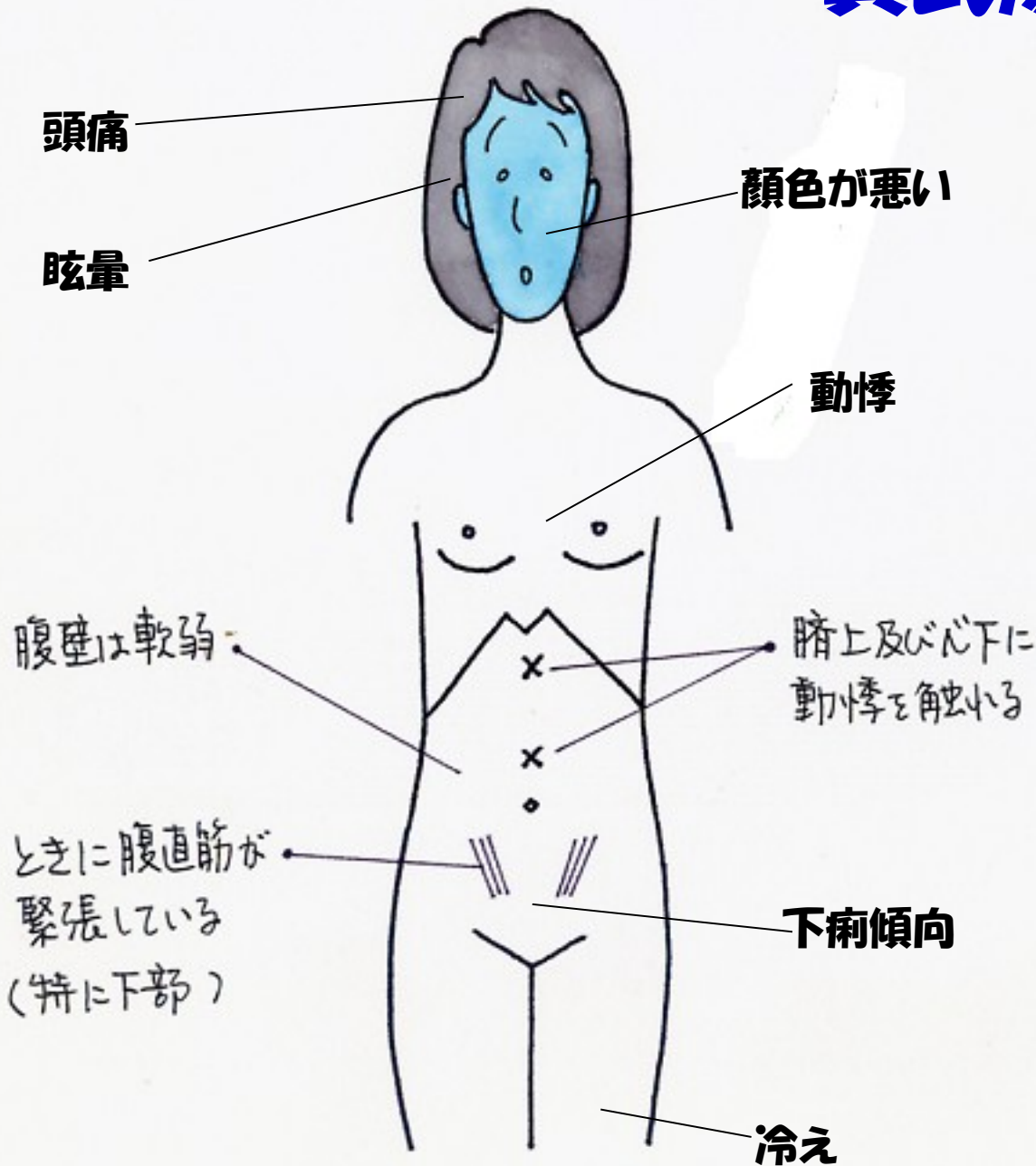
(少陰病、陽虛水泛証)

第三一六条 少陰病、二三日不已、至四五日、腹痛、小便不利、四肢沈重疼痛、自下利者、此爲有水氣。

其人或咳、或小便利、或下利、或嘔者、**真武湯**主之。



腎陽虚水泛は**真武湯の証*** (再掲)



方意

太陽病を発汗させ過ぎた結果、あるいは少陰病の経過中に、腎陽が損傷されて衰微すると、水は制御を失い全身に停滞あるいは氾濫して、多彩な症状を呈す。一方強い裏寒は陰盛格陽を生じ真寒假熱を呈す。本方は腎陽を温補し、寒陰を散ずると共に水気を行らす。

弁証のTrias

- 1) 冷え症で不活発
- 2) 浮腫傾向
- 3) 眩暈、動悸、下痢

(下利清穀・陰盛格陽)

第三一七条 少陰病、下利清穀、裏寒外熱、手足厥逆、脉微欲絶、身反不惡寒、其人面色赤。

或腹痛、或乾嘔、或咽痛、或利止脉不出者、**通脉四逆**湯主之。

少陰病

主証

陽氣大衰
陽氣不達
脉微欲絶
手足厥逆

陰寒內盛
下利清穀

水穀不化
裏寒外熱
身不惡寒
面色赤熱

回陽救逆
破陰驅寒
通脉四逆湯

客証

寒凝氣血
腹痛

胃寒上逆
嘔

虛陽上
咽痛

絕陰竭
利止

津液枯竭
脉不出

於四逆湯
附子增量
乾姜倍加
甘草同量
從四逆湯
藥効增強

變証加減

陰陽不交 → 面赤 → 加葱 → 通陰陽

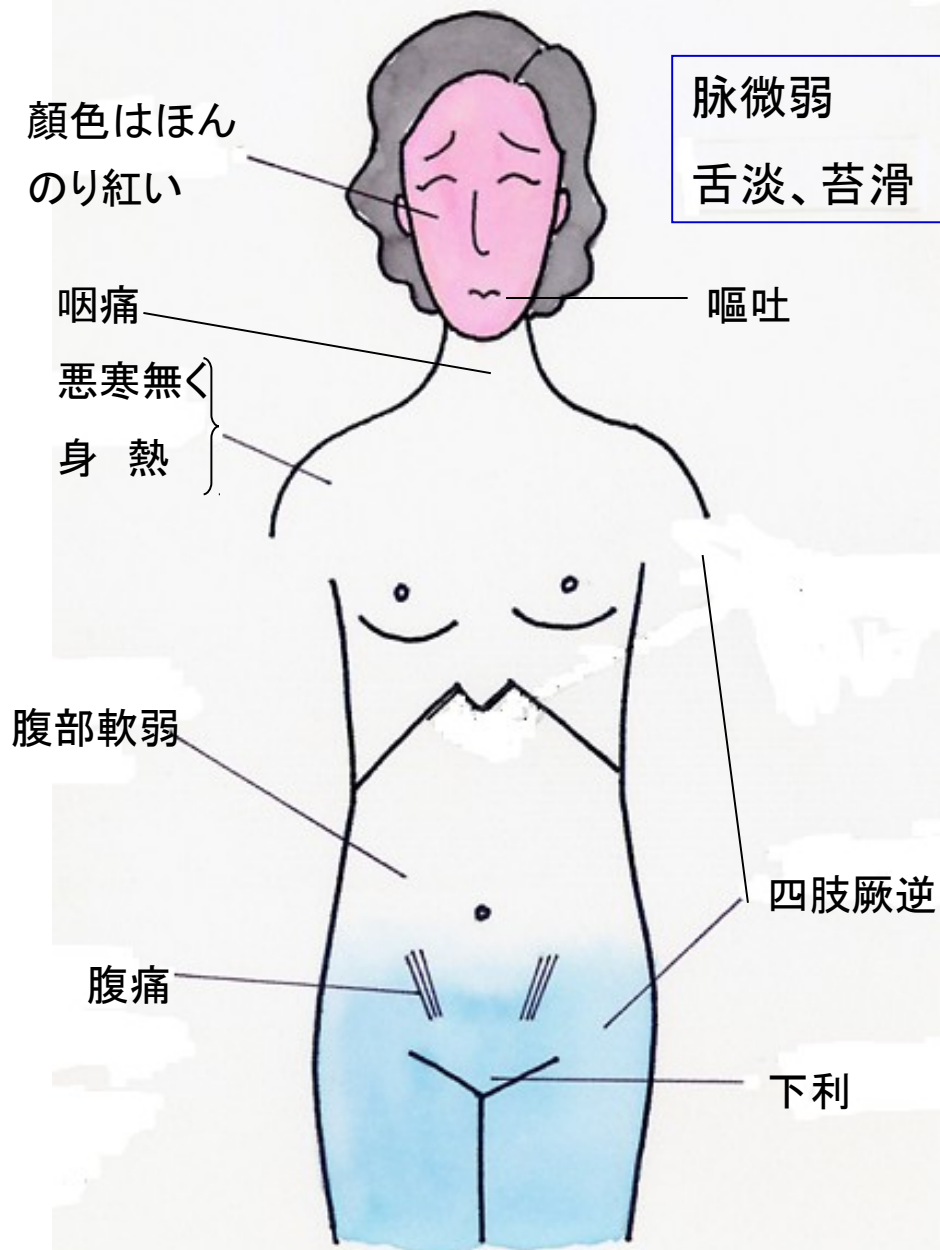
寒凝氣血 → 腹痛 → 去葱加芍藥 → 通陽止痛

寒氣上逆 → 乾嘔 → 加生姜 → 暖胃降逆

虛熱上昇 → 咽痛 → 加桔梗 → 利咽止痛

陽絶脱津 → 利止脉不出 → 加人參 → 益氣生津

少陰病の陰盛格陽は **通脈四逆湯**の証



方意

少陰病の著しい陽虚裏寒が在り、旺盛な陰寒は弱い陽氣と相交らず、これを体外に逐い出す結果、四肢厥逆や清穀下利、脈微などの裏寒証がある一方、体表部は悪寒せず顔面は反て紅く火照るなど、裏寒外熱・眞寒仮熱の証を呈す。

弁証のTrias

- 1)四肢厥逆、下利清穀
- 2)外は悪寒無く、顔色は紅い
- 3)脈微弱、舌色は淡で裏虚寒

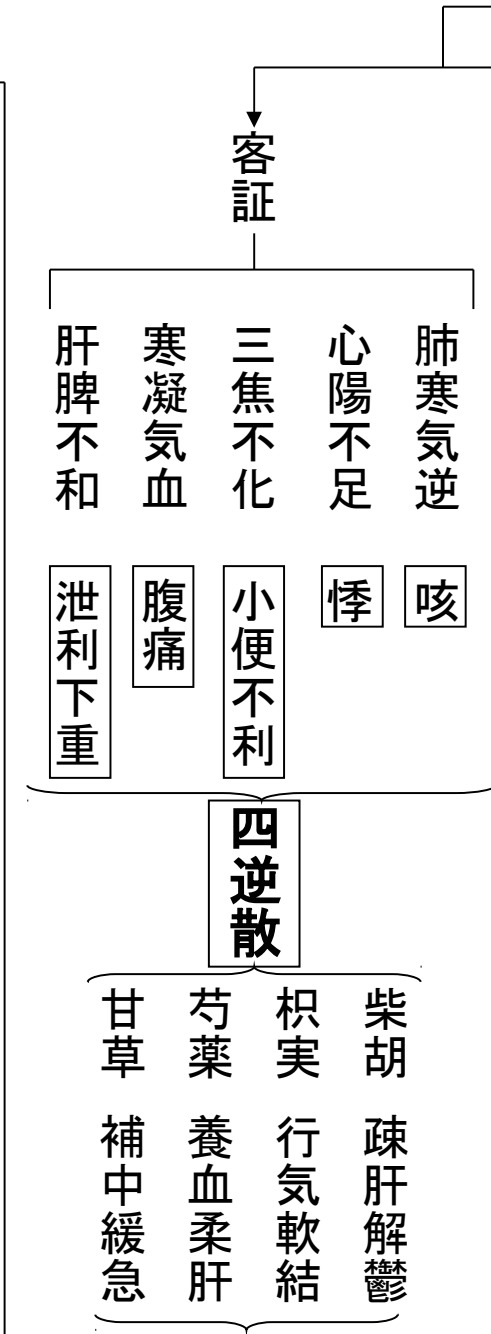
(少陰病、陽鬱・熱厥)

第三一八条 少陰病、四逆、其人或咳、或悸、或小便利、或腹中痛、或泄利下重者、**四逆散**主之。

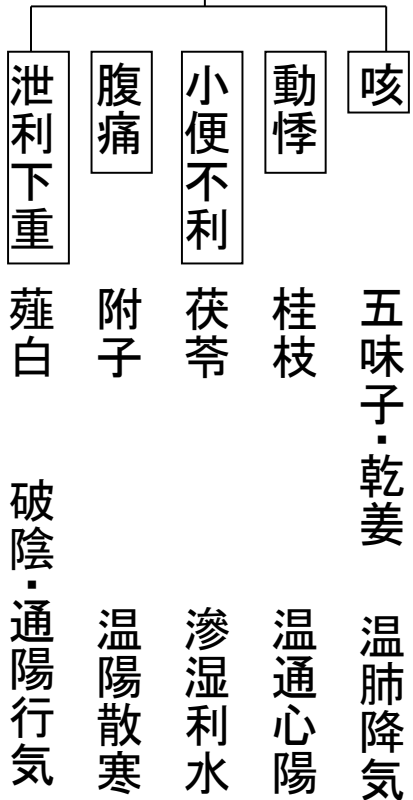


主証

四肢厥逆

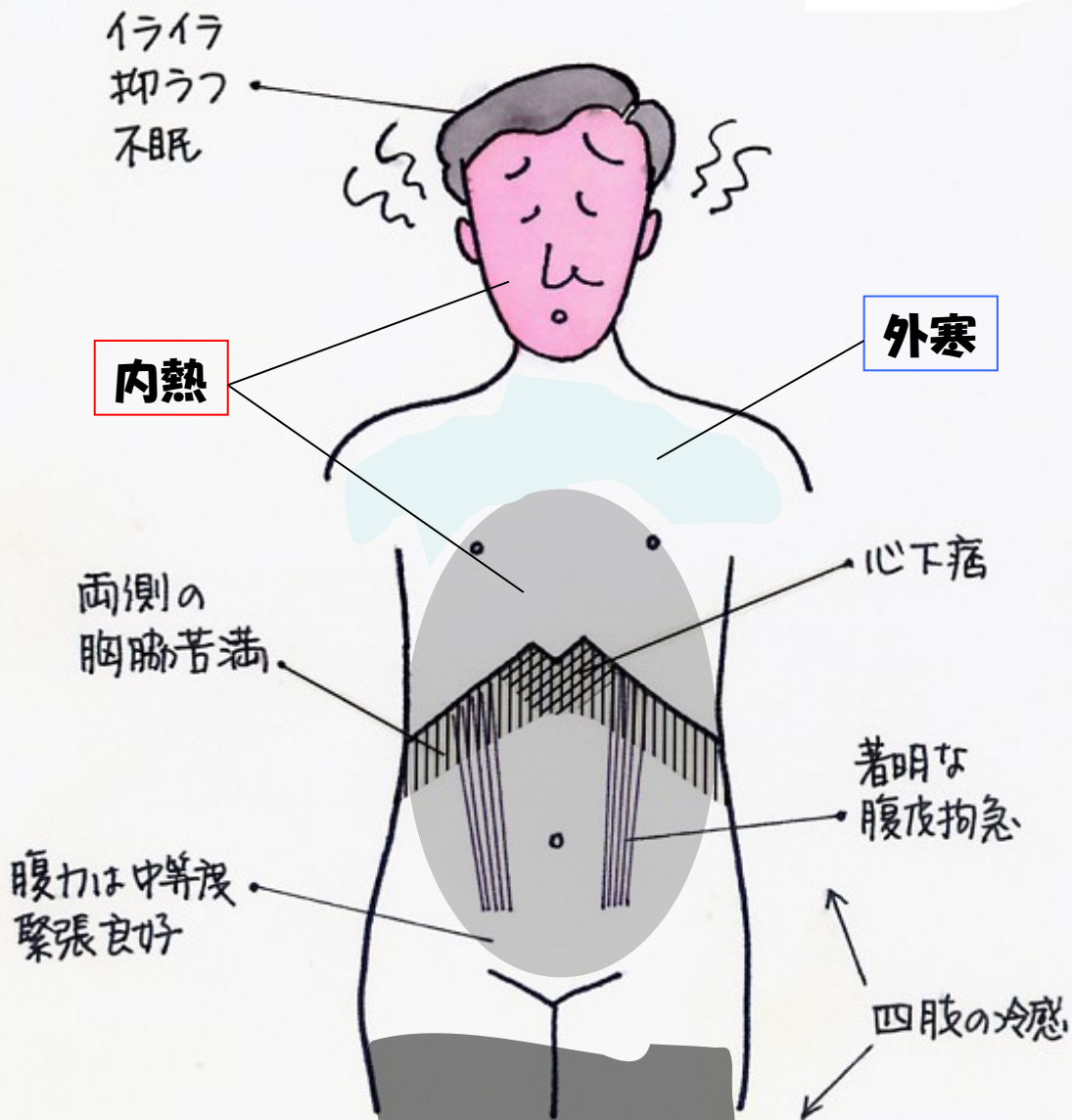


變証加味



肝気鬱結、真熱仮寒の基本処方

四逆散の証*



方意

肝気鬱結して陽氣が四肢に到達しない為、四肢厥逆が生じる。少陰の枢機が失調して陽氣が裏に鬱滞させられる為、内熱外寒(真熱仮寒)の証候を呈す。肺寒上逆して咳、心陽不足で悸、肝氣が脾に横逆すると、腹痛、腹滿、下痢、腹皮拘急を生じる。

3つの病機

- 1) 肝気鬱結(胸脇苦満、抑鬱)
- 2) 肝脾不和(脇痛、腹痛、下痢)
- 3) 陽氣内鬱(真熱仮寒)

(陰虛火旺、水熱互結)

第三一九条 少陰病、下利六七日、咳而嘔、渴、心煩、不得眠者、猪苓湯主之。

少陰病

腎陰虛内熱

水熱互結
水氣不化

下注大腸
下利

水熱犯肺
咳

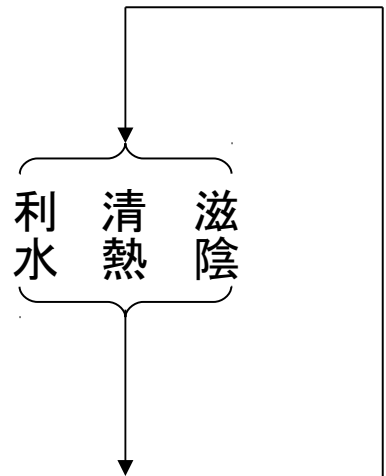
上衝胃腑
嘔

虛火擾心
心煩

心神不寧
不眠

水液代謝
不降
尿不利

失調
不昇
口渴



- 猪苓—強力利尿
- 茯苓—滲湿利水
- 沢瀉—清熱利水
- 滑石—利水通淋
- 阿膠—滋陰潤燥

(参考 類方鑑別)

陽虛裏寒の水液代謝失調 — 真武湯証

少陰病 陰虛内熱の水液代謝失調 — 猪苓湯証

陰虛火旺が顯著で水液代謝無関係 — 黄連阿膠湯証

下焦水熱互結は **猪苓湯の証***

(再掲)

方意

下焦で熱と水が互結して発熱、口渇、尿不利を呈す。

下焦の蓄熱を去り、利尿を
はかる方劑

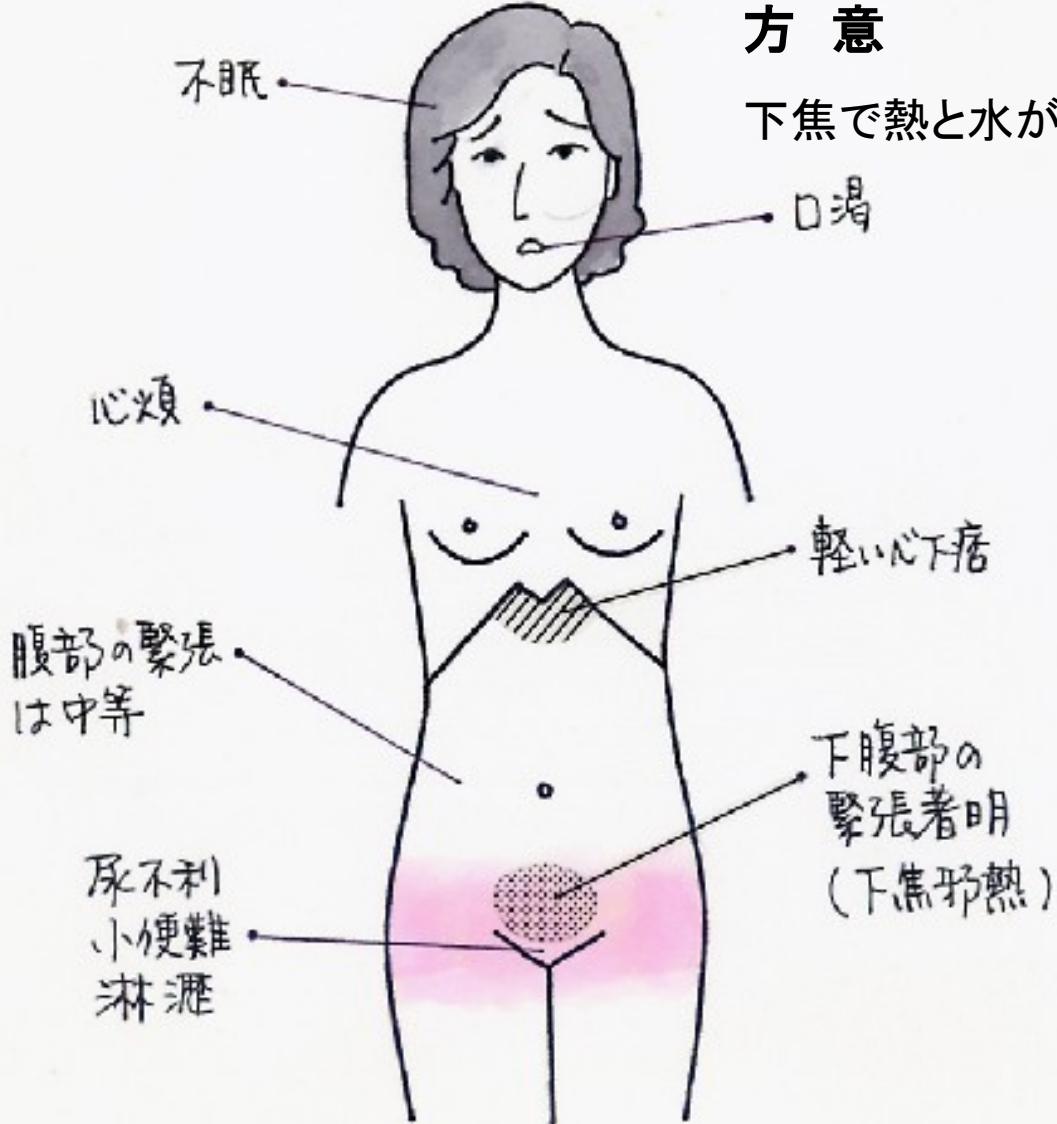
病位は **陽明病と少陰病**

脈は 数

舌は 白苔あり

診断のポイント

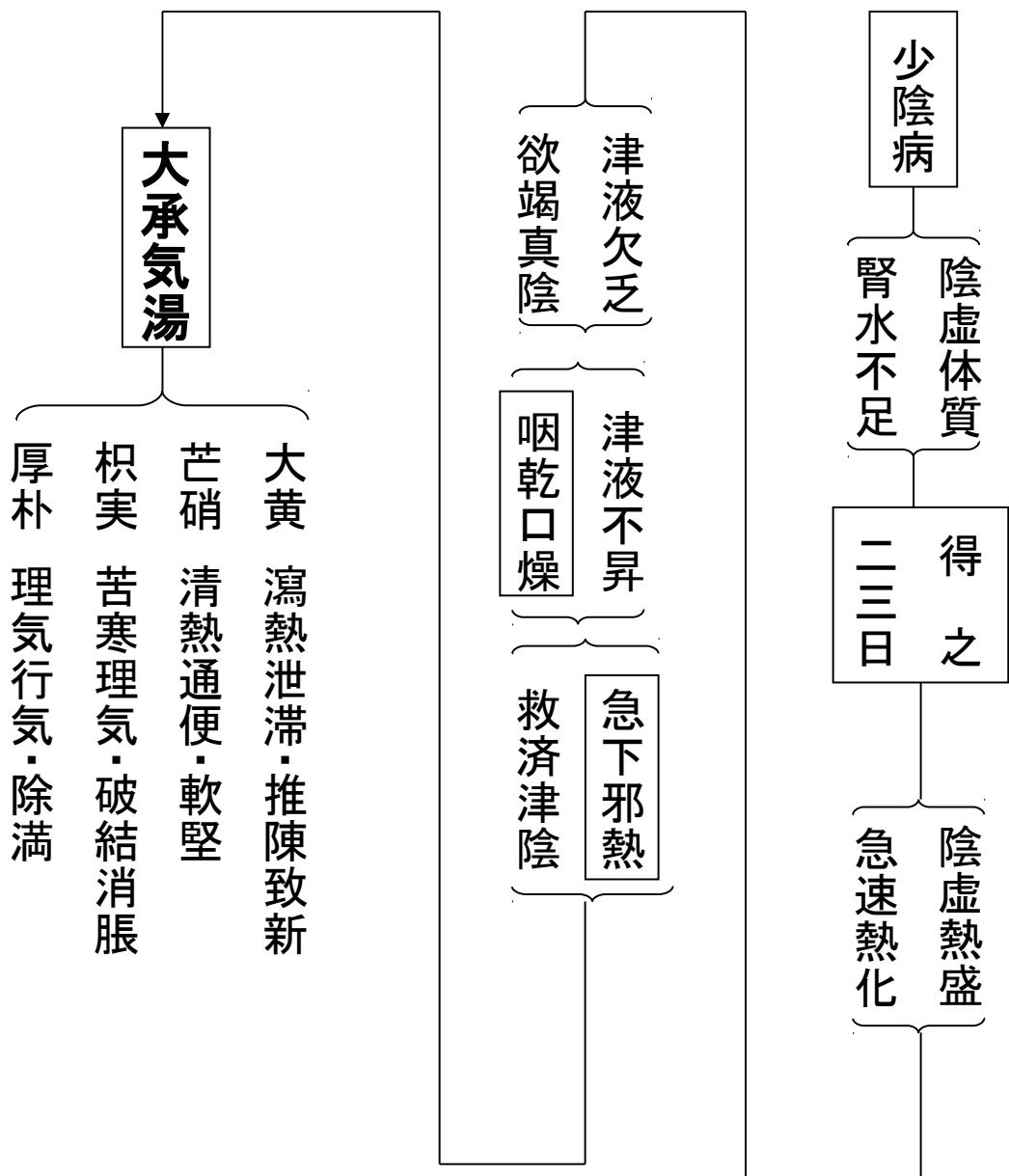
- ・小便難
(膀胱刺戟症状)
- ・下腹の緊満
- ・口渇、尿不利



(少陰病三急下之証①)

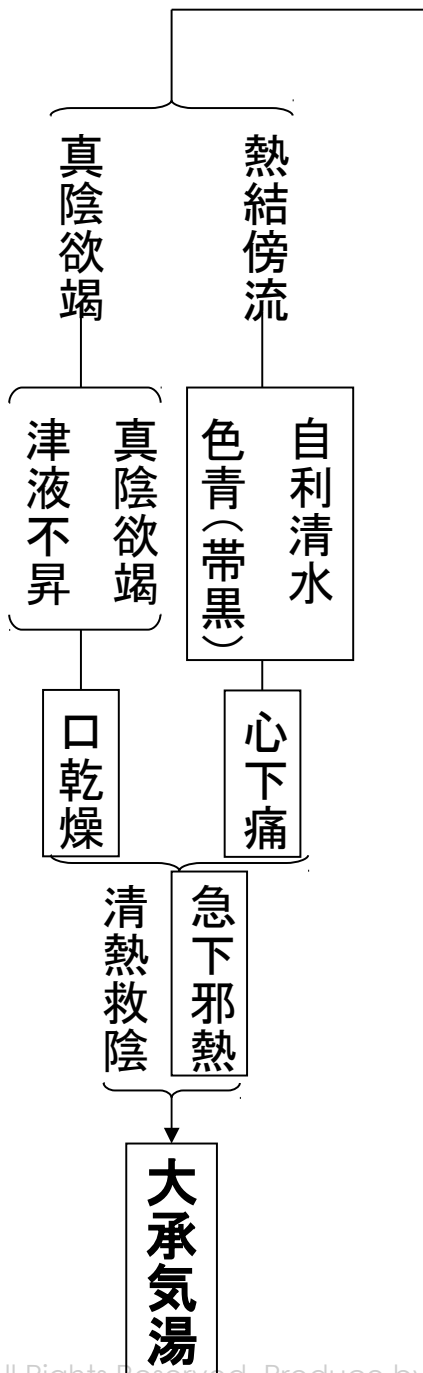
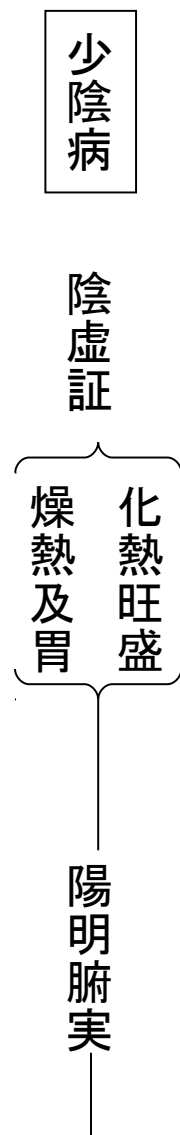
第三二〇条 少陰病、得之二三日、口燥咽乾者、急下之、宜

大承氣湯。



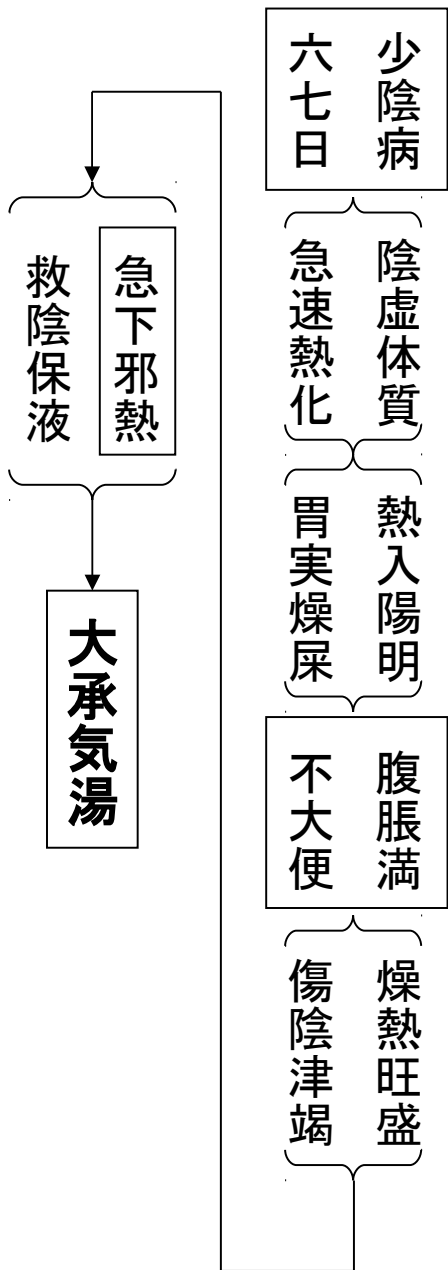
少陰病三急下之証 ②

第三二一条 少陰病、自利清水、色純青、心下必痛、口乾燥者、可下之、宜大承氣湯。



少陰病三急下之証 ③

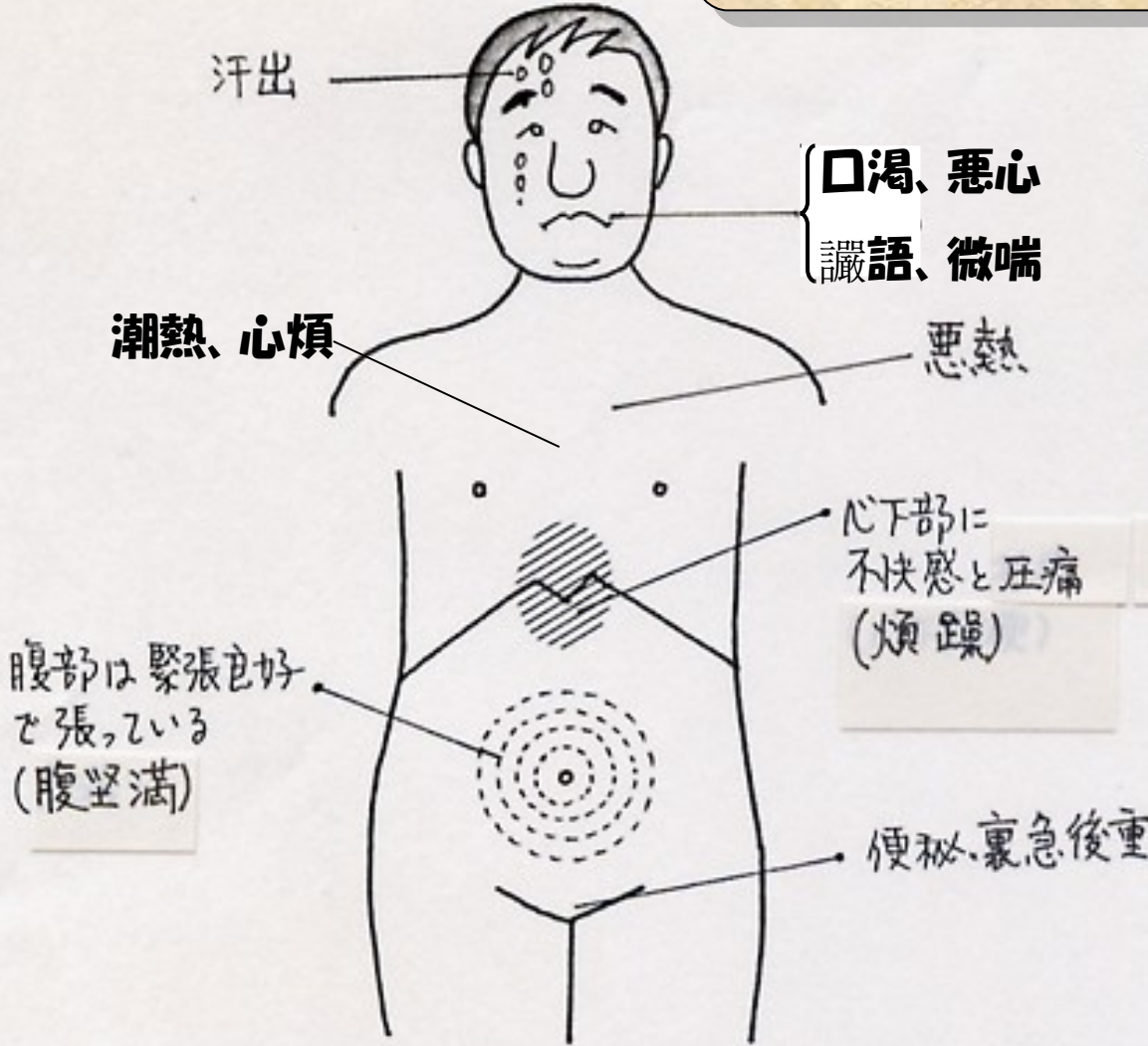
第三二二条 少陰病六七日、腹脹不大便者、急下之、宜大承氣湯。



少陰病三急下も

大承気湯の証

*
(再掲)



陽明病の代表的方剤である承気湯類の中では最も作用の強力な薬方である。順気通便の方剤である。病位は陽明病裏熱実証。脈は沈実遲。舌は乾燥し、厚い黄苔或いは黒苔。

- 弁証のTrias**
- 1) 少陰病熱化証極期
 - 2) 潮熱、譫語、多汗
 - 3) 腹実満痛、便秘、拒按

K. Takayama

少陰病下利亡陽之虞

第三二三条 少陰病、脉沈者、急温之、宜四逆湯。

少陰病
脉沈

陽虛裏寒
亡陽切迫

急温之
回陽急逆

四逆湯

附子 急補腎陽
乾姜 温裏散寒
甘草 補脾益氣

第三二四条 少陰病、飲食入口則吐、心中温温欲吐、復不能吐。

始得之、手足寒、脉弦遲者、此胸中實、不可下也、当吐之。

若膈上有寒飲、乾嘔者、不可吐也、当温之、宜四逆湯。

少陰病

心中温温
不能吐

寒飲實邪
胸中停滯
弦脈痰飲
遲脈寒盛

手足寒
脉弦遲

胸中實
寒飲邪
不可下
当吐之

食入則吐

寒飲不化
乾嘔吐者

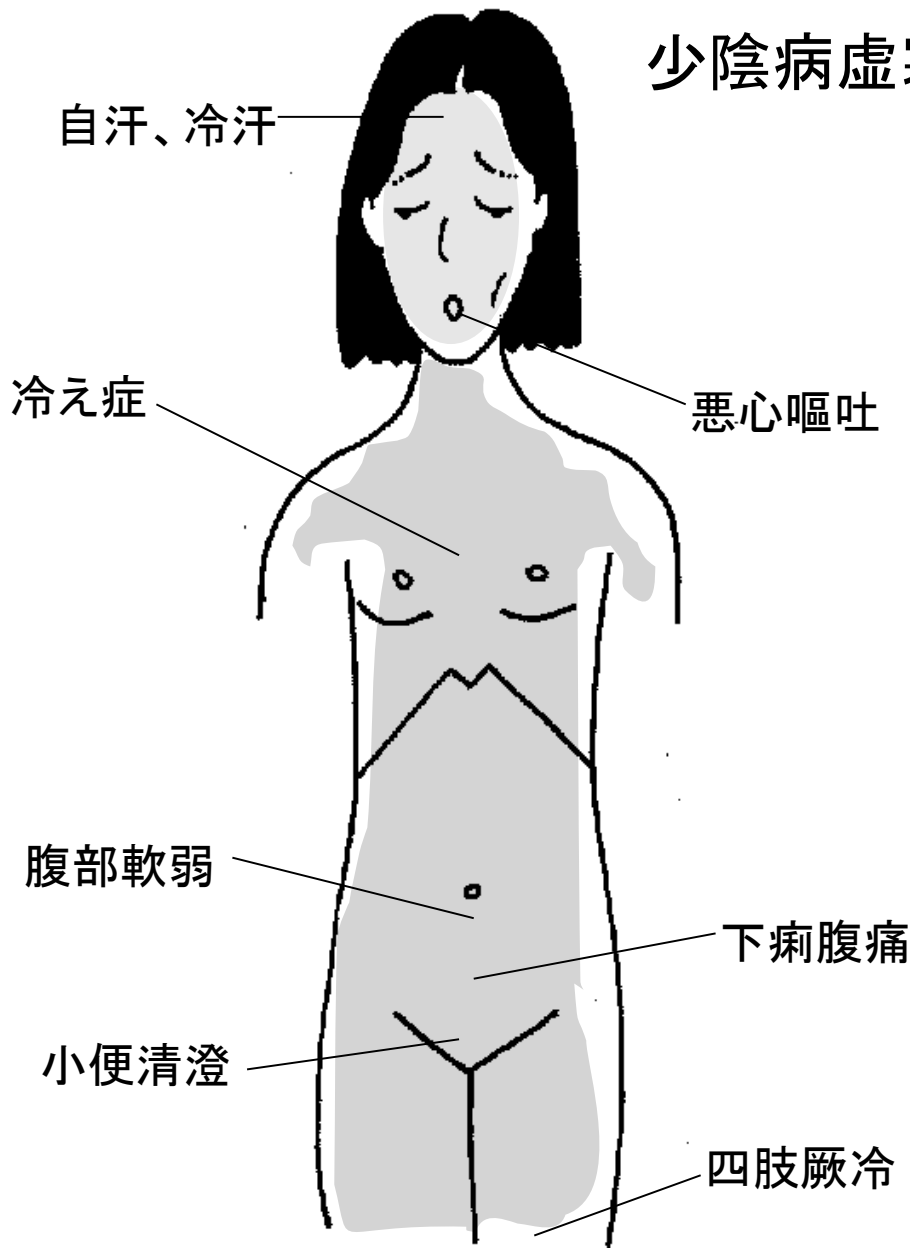
不可吐
当温之

膈上有寒飲

四逆湯

附子 大辛、大熱。補陽散寒·回陽救逆
乾姜 大辛、大熱。温中散寒·回陽通脉
甘草 甘平。補中益氣·諸藥調和

少陰病虚寒証の基本処方は**四逆湯***



方意

少陰病の腎陽虚証を主治する基本処方で回陽救逆を主る。

腎陽が虚して陰寒内盛に陥った時、或は亡陽して虚脱に陥った時は何病に限らず第一選択で用いられる。

少陰病だけでなく、太陰病、厥陰病の、裏寒証、あるいは陰陽両虚の場合に広く活用される陰病の主方である。

弁証のTrias

- 1) 冷え症、下痢傾向
- 2) 手足厥冷
- 3) 倦怠感強く、不活発

第三二五条 少陰病、下利、脉微瀉、嘔而汗出、必数更衣、

反少者、当温其上、灸之。

